

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 国立国語研究所研究活動一覧（平成14年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/0002000346">https://doi.org/10.15084/0002000346</a>

国立国語研究所  
研究活動一覽  
(平成14年度)

*Annual Report of Research Activities*  
*The National Institute for Japanese Language*  
*April 2002 - March 2003*

国立国語研究所  
研究活動一覽  
(平成14年度)

*Annual Report of Research Activities  
The National Institute for Japanese Language  
April 2002 - March 2003*

## 『国立国語研究所研究活動一覧（平成14年度）』について

国立国語研究所では平成7年から9年にかけて『国立国語研究所研究発表資料集』を作成しました。平成10年度からは、その機能を整理・継承する形で『国立国語研究所研究活動一覧』を作成しています。本資料は、その平成14年度版です。

本資料は、(1)研究職員の研究活動を所内外に公表する情報公開のための資料とすること、(2)外部評価のための資料とすることの2点を主たる目的として作成したものです。当該期間における研究職員の成果物である報告書や研究論文等の書誌情報の一覧とともに、個々の研究職員が研究所で行っている研究・事業の課題名、研究所運営に関わるさまざまな業務などを示すことにより、研究職員がどのような研究活動を行っているか、その全体像を広く知っていただくことを企図したものです。なお、研究論文等の具体的内容（本文）については、掲載雑誌等を別途ご参照くださるようお願いいたします。

本資料の巻末には、研究会議（研究職員による研究所内部の会議）における研究発表等、所内の各種委員会・部会ならびにその委員・部会員、見学者、平成14年度研究所刊行物などについて、それぞれの一覧を掲載しています。

### 凡 例

- ・ 平成14年度の研究機構における部門を単位として、常勤、及び常勤に準ずる研究職員の研究活動を示しています。
- ・ 研究活動の区分は、以下のようになっています。研究職員によっては、特定の欄が設けられていないことがあります。これは該当する情報がなかったことを示しています。

- 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）
- 2 成果公表活動
  - A 国立国語研究所を刊行元とするもの
  - B 所員が執筆・編集した単行本
  - C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文
  - D 論文集等に掲載された論文
  - E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）
  - F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）
- 3 上記以外の所内業務
  - ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等
  - イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等
  - ウ. 各種委員会・部会、研究支援等
  - エ. 見学者への対応等
- 4 所外活動
  - ア. 所外委員会
  - イ. 学会活動
  - ウ. 教育活動
- 5 その他

※ この一覧は、『国立国語研究所研究活動一覧』作成作業班が、基本的に個々の研究職員から寄せられた情報をもとに編集しています。情報はできる限り統一して提示するよう努めました。個々人の判断などによって、必ずしも網羅的でない面や不統一が残っている場合があります。利用にあたってはその点にご留意ください。



## 目次

### 『国立国語研究所研究活動一覧（平成14年度）』について

#### 凡 例

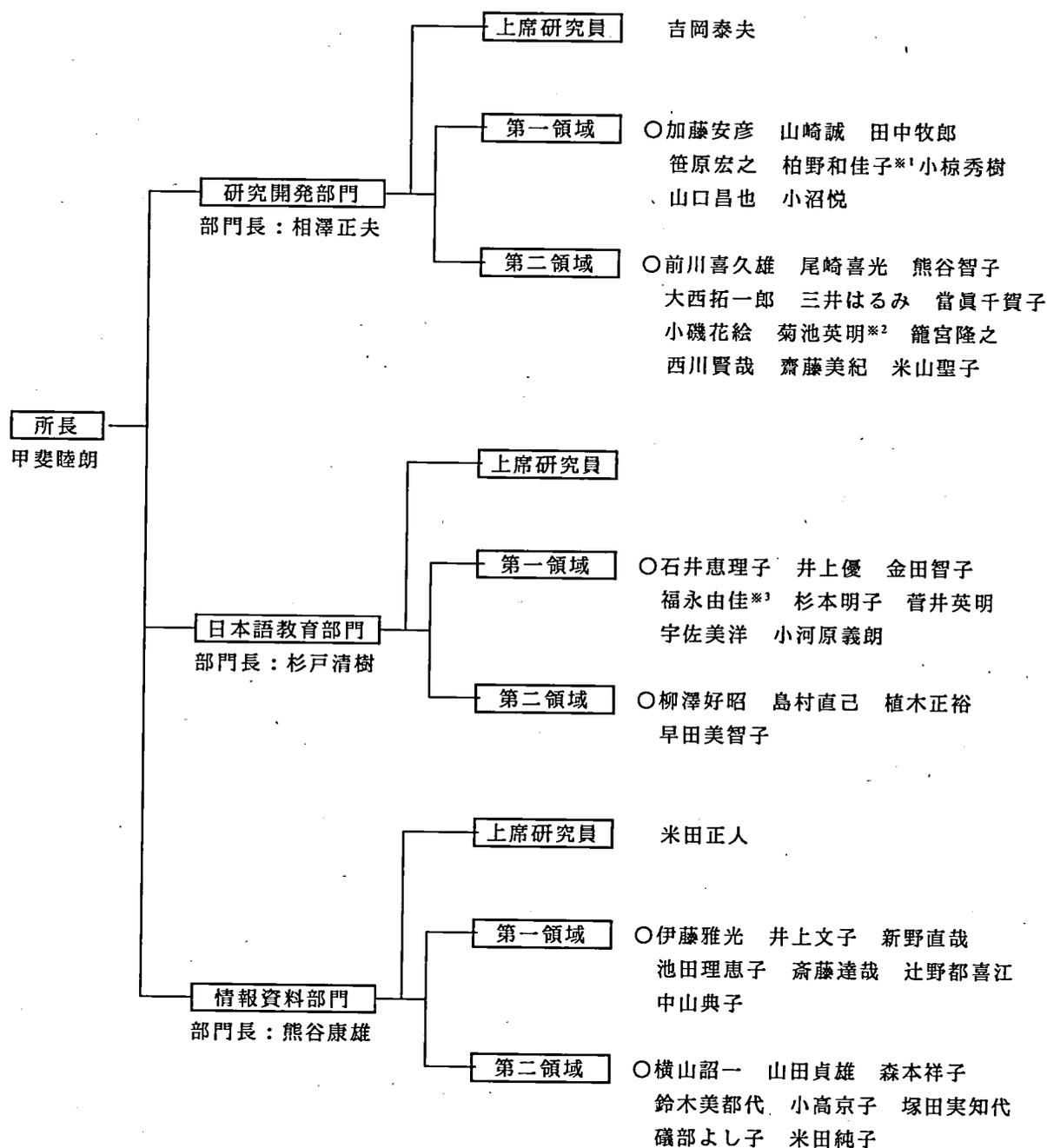
#### 研究機構

#### 平成14年度研究活動一覧

所長	3
研究開発部門	5
第一領域	9
第二領域	18
日本語教育部門	33
第一領域	36
第二領域	49
情報資料部門	53
第一領域	56
第二領域	63
平成14年度研究会議・研究発表一覧	73
平成14年度所内委員会委員・部会員一覧	74
平成14年度刊行物検討委員会一覧	77
平成14年度所内見学者一覧	78
平成14年度招へい研究員一覧	79
平成14年度非常勤研究員等一覧	80
平成14年度外国人等研究員受入一覧	81
平成14年度外国出張一覧	82
平成14年度国立国語研究所刊行物一覧	89



## 研究機構 (平成15年3月31日現在)



○印は領域長

※1 平成14年4月1日から10月15日まで育児休業，平成15年1月14日以降特別休暇

※2 平成14年8月31日退職

※3 平成14年8月23日から11月24日まで特別休暇，平成14年11月25日から平成15年1月31日まで育児休業



平成14年度  
研究活動一覽



## 所長

### 甲斐睦朗

#### 2 成果公表活動

##### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「国語科教育の内容」, 全国大学国語教育学会 編 『新訂小学校国語課教育研究』, pp.17-20, 学芸図書, 2002年5月
- 「言語教育としての国語教育と日本語教育」, 全国大学国語教育学会 編 『国語科教育学研究の成果と展望』, pp.55-61, 明治図書, 2002年6月
- 「国語科学習基本語彙研究の成果」, 全国大学国語教育学会 編 『国語科教育学研究の成果と展望』, pp.360-367, 明治図書, 2002年6月
- 「これからの日本語教育」, 徐敏民他 編 『中国日語教育的世紀願与展望』, pp.3-7, 上海三聯書店, 2002年10月

##### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「『国語教育』か『日本語教育』か、それとも—日本語国際化への対応—」, 全国大学国語教育学会 編 『国語科教育』 No.51, pp.6-7, 全国大学国語教育学会, 2002年3月
- 「言葉を見つめる・国語を教える—国語科はどういう言語能力を育成する教科なのか—」, 『日本語学』 Vol.21 No.5, pp.6-11, 明治書院, 2002年4月
- 「子供の語彙を豊かにする指導の工夫—語彙力育成のための具体的な方策—」, 言語技術教育研究所 編 『教育科学国語教育』 No.626, pp.3-7, 明治図書, 2002年11月
- 「日本語の本が売れている」, 『かざぐるま通信』 No.6, pp.1-5, 光村図書, 2002年12月

#### 3 上記以外の所内業務

##### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』, 座談会司会

##### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員長
- 普及広報委員会委員長
- 大学院運営委員会委員長
- 所内「外来語」委員会委員長
- 移転整備実施委員会委員長
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員長

#### 4 所外活動

##### ア. 所外委員会

- 旺文社全国学芸科学コンクール最終審査委員
- 国際交流基金日本語国際センター事業協力委員
- 国際交流基金北京日本学研究中心協力委員
- 国文学研究資料館評議員
- 財団法人NHK放送研修センター理事
- 財団法人教育研究振興会評議員
- 財団法人日本語教育振興協会理事・研修委員

- 財団法人博報児童教育研究振興会博報賞審査委員長
- 社団法人国際日本語普及協会評議員
- 大学評価・学位授与機構大学評価委員会専門委員
- 統計数理研究所評議員会会長
- 読売新聞社活字文化推進会議・推進委員
- 読売新聞社全国小・中学校作文コンクール中央審査委員
- 日本貿易振興会ビジネス日本語能力テスト協力機関会議委員
- 文化審議会国語分科会委員

#### イ. 学会活動

- 国語学会評議員
- 表現学会理事

#### 5 その他

- 「最近の日本語関係図書における日本語能力観、日本語観を考える」, 北京日本語研究センター, 2002年10月
- 「子どもたちの読書活動を促進するためには」, 西部地区学校図書館活用フォーラム, 米子コンベンションセンター, 2002年10月
- 「今なぜ活字文化なのか」, 第1回活字文化推進フォーラム, 読売会館, 2002年11月
- 「徳島大学留学生センター開所式に臨んで」, 徳島大学留学生センター, 2002年12月
- 「最近, 新聞に思うこと」, 新聞校閲部長会議, 2003年1月
- 「国語力とNIE」, 第7回NIE推進協議会事務局会議, 新聞協会, 2003年2月

# 研究開発部門

## 相澤正夫（部門長）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築
- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索
- 新世紀日本人のコミュニケーション能力の基盤形成に関する基礎的研究
- 分かりにくい外来語の言い換え提案
- 電子政府汎用電子情報交換環境整備プログラム
- 大学院教育
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題「話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築」の構築

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表—増補改訂版—（国立国語研究所資料集 14）』, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差—方言は今—』言葉のクリップボード 1件, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差—方言は今—』コラム 1件, 2003年3月
- 『国語研の窓』 2件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 柴田武, 山田進 編 『類語大辞典』, 講談社, 2002年11月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「内閣告示「ローマ字のつづり方」の問題点」, 『日本医事新報』 No.4067, pp.104-105, 日本医事新報社, 2002年4月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.21 No.11, pp.92-93, 明治書院, 2002年9月
- 「『外来語』言い換え提案(中間発表)について」, 『文化庁月報』 No.414, pp.15-16, ぎょうせい, 2003年3月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.22 No.3, pp.106-107, 明治書院, 2003年3月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「日本語コミュニケーションにおける外来語使用の功罪」, 『日本語コミュニケーションの言語問題』, pp.50-57, 第10回国立国語研究所国際シンポジウム第2部会, 2002年9月

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「音声現象の多様性」, 北京日本学研究センター講演会, 2002年10月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」, 企画・運営
- 第11回ことばフォーラム「ことば探検・ことば発見」, 企画・運営

イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語2—面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 刊行物検討委員会委員長
- 『分類語彙表—増補改訂版— (国立国語研究所資料集 14)』, 刊行物検討委員会委員長
- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 企画・編集

ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 研究企画調整部会員
- 研究計画委員会 評価部会長
- 研究計画委員会 研究交流部会長
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会長
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 企画部会員
- ネットワーク運営委員会委員
- 大学院運営委員会委員
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員
- 所内「外来語」委員会委員
- 移転整備実施委員会委員
- 移転整備実施委員会 企画部会員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

エ. 見学者への対応等 5 件

4 所外活動

イ. 学会活動

- 日本音声学会評議員・会則検討委員

5 その他

- 『河北新報』「にほん語 現在形 未来形 8」, コメント掲載, 2002年8月



## 吉岡泰夫 (上席研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 新世紀日本人のコミュニケーション能力の基盤形成に関する基礎的研究
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(1) コミュニケーションの地域性と関西方言の影響力についての広域的研究 (分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「言語問題・言語政策の調査研究」, 国立国語研究所 編 第9回国立国語研究所国際シンポジウム第1部会『多言語・多文化共生社会における言語問題』, pp.3-5, 国立国語研究所, 2002年7月
- 「ポライトネス・ストラテジーに関する言語問題」, 国立国語研究所 編 第9回国立国語研究所国際シンポジウム第1部会『多言語・多文化共生社会における言語問題』, pp.77-88, 国立国語研究所, 2002年7月
- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』問答1件, 2003年3月
- 『国語研の窓』2件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「イントネーションの方言学」, 日本方言研究会 編 『21世紀の方言学』, pp.193-208, 国書刊行会, 2002年6月
- 「敬語の社会差・地域差と対人コミュニケーションの言語問題」, 北原保雄 監修 菊池康人 編 『朝倉日本語講座8 敬語』, pp.117-138, 朝倉書店, 2003年3月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「第9回国立国語研究所国際シンポジウム報告「多言語・多文化共生社会における言語問題」」, 国立国語研究所 編 『日本語科学』 No.11, pp.163-164, 国立国語研究所, 2002年4月
- 「〈小事典〉ふるさとのことば 熊本県」, 『言語』 Vol.32 No.1, pp.114-115, 大修館書店, 2003年1月
- 音声コミュニケーションの解明, 『文教ニュース』 No.1713, p.33, 文教ニュース社, 2003年2月

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「コミュニケーション意識と敬語行動」, 陣内正敬 編 『コミュニケーションの地域性と関西方言の影響力についての広域的研究(科学研究費補助金基盤研究(B)(1)成果報告書)』, pp.111-120, 2003年3月

#### E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「コミュニケーション能力としての敬語の使い分け能力」, 国立国語研究所 編 第10回国立国語研究所国際シンポジウム第2部会『日本語コミュニケーションの言語問題』, pp.58-69, 国立国語研究所, 2002年9月

#### F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 「話しことばの豊かさと円滑なコミュニケーション」, 第11回「ことば」フォーラム『ことば探検・ことば発見』, 2002年8月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」, 企画・運営
- 第11回ことばフォーラム「ことば探検・ことば発見」, 企画・運営
- 第14回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」, 企画・運営

#### ウ. 研究支援等

- 特別研究生の指導
- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 図書選定部会長

#### エ. 見学者への対応等 3件

#### 4 所外活動

##### イ. 学会活動

- 国語学会大会企画運営委員
- 査読 国内雑誌 1 件

##### 5 その他

- NHK 総合テレビ (熊本放送局) 「ひのくにプラザ」出演・監修, 2002 年 4 月-2003 年 3 月
- NHK 総合テレビ (札幌放送局) 「北海道クローズアップ」出演, 2002 年 4 月
- 関西テレビ放送株式会社 「痛快! エブリデイ」コメント紹介, 2002 年 5 月
- 河北新報 「にほん語 現在形 未来形」コメント掲載・取材協力, 2002 年 7 月-2003 年 3 月
- NHK 教育テレビ 「ETV スペシャル お国ことばデジタル研究所」出演, 2002 年 8 月
- 熊本日日新聞 「ことばフォーラム in 熊本」コメント掲載, 2002 年 8 月
- 熊本日日新聞 「新生面」コメント掲載, 2002 年 8 月
- 熊本日日新聞情報文化センター 「文化セミナー」講演, 2002 年 10 月
- 朝日新聞 「日本語ブーム」コメント掲載, 2002 年 11 月
- JAL Family Letter 「どうなってるの? 今どきの敬語」インタビュー記事掲載, 2003 年 3 月
- 朝日中学生ウイークリー 「キミの日本語ダイジョブ?」インタビュー記事掲載, 2003 年 3 月

## 研究開発部門第一領域

### 加藤安彦（領域長）

#### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築
- 分かりにくい外来語の言い換え提案
- 日本学術振興会特別研究員奨励費『分類語彙表』の国際化に関する研究—日韓両言語シソーラスの構築とその応用—

#### 2 成果公表活動

##### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表—増補改訂版—（国立国語研究所資料集 14）』, 2003年3月

##### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「コーパスから量的な情報を導き出すことについて」, 『日本語学』 No.14, pp.1-9, 2002年9月
- 「辞書などで「日本語」を「日本語」で定義することは可能なのか?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, pp.14-15, 明治書院, 2002年11月
- 「日本語の逆引き辞典があるそうですが、どんなものですか?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.23, 明治書院, 2002年11月
- 「「重い」と「重たい」はどう違う?なぜ「軽い」は一語しかないの?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.114, 明治書院, 2002年11月

##### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「量的な情報—コーパスから導き出されるもの—」, 『韓国日本語学会第15回学術発表大会』, pp.11-15, 韓国日本語学会, 2002年4月

#### 3 上記以外の所内業務

##### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語科学』, 企画・編集

##### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 評価部会員
- 研究計画委員会 刊行企画部会員
- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会委員
- 大学院運営委員会委員
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員
- 所内「外来語」委員会委員
- 移転整備実施委員会委員

##### エ. 見学者への対応等 7件

## 4 所外活動

### ア. 所外委員会

- ISO/TC37（用語の原則と調整）国内対策委員
- 言語資源共有機構運営委員

### イ. 学会活動

- 言語処理学会理事・編集委員・渉外担当委員
- 社会言語科学会理事・事業委員長
- 電子情報通信学会『言語理解とコミュニケーション』研究専門委員
- 査読 国内雑誌 2 件

### ウ. 教育活動

- 専修大学文学部非常勤講師



## 山崎 誠（主任研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築（現代雑誌 200 万字言語調査／分類語彙表）
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 論理的な日本語表現を支える複合辞形式に関する総合研究 (分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表 —増補改訂版—（国立国語研究所資料集 14）』, 2003 年 3 月

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「新聞記事データに見る「につれて」」, 新・複合辞研究会, 2002 年 11 月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『分類語彙表 —増補改訂版—（国立国語研究所資料集 14）』, 刊行物検討委員会委員

#### ウ. 研究支援等

- 図書館運営委員会 図書選定部会員
- ネットワーク運営委員会委員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク運用管理部会長

## 4 所外活動

### ア. 所外委員会

- 計量国語学会理事

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 4 件



田中牧郎 (主任研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (太陽コーパス)
- 分かりにくい外来語の言い換え提案
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「20 世紀初期総合雑誌コーパス」の構築による確立期現代語の高精度な記述 (代表者)
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費 (データベース) 既刊『国語学』累積総合データベース (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方は今一』問答 1 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

B 所員が執筆・編集した単行本

- 「人称代名詞」, 半沢幹一, 安部清哉, 小野正弘, 金子弘 編 『ケーススタディ日本語の歴史』, pp.66-71, おうふう, 2002 年 11 月
- 「意味の変化」, 半沢幹一, 安部清哉, 小野正弘, 金子弘 編 『ケーススタディ日本語の歴史』, pp.90-95, おうふう, 2002 年 11 月

C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.21 No.8, pp.100-101, 明治書院, 2002 年 7 月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.22 No.1, pp.102-103, 明治書院, 2003 年 1 月

D 論文集等に掲載された論文

- 「語彙層別化資料としての今昔物語集 — 二字漢語サ変動詞を例として —」, 『国語語彙史の研究』 No.22, pp.17-36, 和泉書院, 2003 年 3 月

E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 山口昌也, 田中牧郎: 「言語研究のための構造化テキストと検索支援システム — 「太陽コーパス」を例として —」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.169-176, 国語学会 2002 年度春季大会, 2002 年 5 月

F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「語彙層別化資料としての今昔物語集 — 二字漢語サ変動詞を例として —」, 国語語彙史研究会, 2002 年 9 月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 平成 14 年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会員
- 普及広報委員会 公開研究発表会部会長
- 所内「外来語」委員会委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

イ. 学会活動

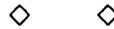
- 国語学会庶務委員長

ウ. 教育活動

- 日本女子大学文学部非常勤講師

5 その他

- 「日本語の源流 —語種から見た日本語の流れ—」, すし楽習塾, 逗子市役所会議室, 2002年11月
- 「「…みただ」の誕生と定着 —コーパスで言葉の歴史を調べる—」, NHK ラジオ はなす きく よむ, 2002年12月



## 笹原宏之 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (現代雑誌 200 万字言語調査/太陽コーパス/分類語彙表)
- 電子政府汎用電子情報交換環境整備プログラム
- 科学研究費補助金 若手研究 (B) 現代日本の「異体字」の実態に関する調査研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 20 世紀初期総合雑誌コーパスの構築による確立期現代語の高精度な記述 (分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表 —増補改訂版— (国立国語研究所資料集 14)』, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』コラム 1 件, 2003年3月
- 『国語研の窓』 1 件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 芝野耕司 編 『JIS 漢字字典 増補改訂版』, 日本規格協会, 2002年5月
- 井上正, 山田俊治, 伊藤善隆, 笹原宏之, 十重田裕一, 畑中基紀 編 『日夏耿之介宛書簡集 学匠詩人の交友圏』, 飯田市美術博物館, 2002年7月
- 国立国語研究所, 情報処理学会, 日本規格協会: 『平成 14 年度汎用電子情報交換環境整備プログラム実施報告書』, 日本規格協会, 2003年3月

## C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「「つなぐ」と「つなげる」」, 『日本医事新報』 No.4069, p.103, 日本医事新報社, 2002年4月
- 「姓に使われている漢字」, 『ペン字』, pp.4-5, NHK学園, 2002年4月
- 「「快復」と「回復」」, 『日本医事新報』 No.4072, pp.104-105, 日本医事新報社, 2002年5月
- 「「葛」の字体」, 『日本医事新報』 No.4078, p.116, 日本医事新報社, 2002年6月
- 「「繰り返し記号」の種々相」, 『ペン字』, pp.4-5, NHK学園, 2002年7月
- 「携帯メールにおける文字表記の特徴とその影響」, 『社会言語科学』 Vol.5 No.1, pp.105-116, 社会言語科学会, 2002年9月
- 「誤嚥・誤飲と国語辞典」, 『日本医事新報』 No.4094, pp.104-105, 日本医事新報社, 2002年10月
- 「筆順について」, 『ペン字』, pp.2-3, NHK学園, 2002年10月
- 「地名を漢字で書くために —文献と地名に見る「がけ」の一字表記—」, 『日本語学』 Vol.21 No.15, pp.30-42, 明治書院, 2002年12月
- 笹原宏之, 吉川明日香: 「JIS漢字制定の基準」, 『日本医事新報』 No.4105, p.99, 日本医事新報社, 2002年12月
- 「「椿」はいつから「つばき」になったか」, 『ペン字』, pp.4-5, NHK学園, 2003年1月
- 「文字を変化させる力」, 『国文学研究』 No.139, pp.53-63, 早稲田大学国文学会, 2003年3月
- 共同通信社編 『新日本語ノート』, 2003年4-7月

## E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 大森拓哉, 繁樹算男, 笹原宏之, 横山詔一: 「漢字選好モデルの数量化 I類とニューラルネットによる検討」, 『日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集』, pp.228-229, 日本行動計量学会第30回大会, 2002年9月

## F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 「漢字研究のいま・これから」, 第10回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 2002年6月
- 「新聞の漢字を調べる」, 第12回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 2002年12月
- 「太陽にみる漢字文字列における同化と衝突」, 太陽研究会, 2003年3月

## 3 上記以外の所内業務

## ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第10回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 企画・運営
- 第12回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 企画・運営
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム文字対応WG
- 汎用電子情報交換環境整備実務者会議
- 平成14年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

## イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『分類語彙表—増補改訂版—(国立国語研究所資料集14)』, 企画・編集

## ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会員
- 普及広報委員会 公開研究発表会部会員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

## 4 所外活動

## ア. 所外委員会

- 文字コード標準体系専門委員会委員

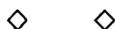
- 学会試行標準／WG5 小委員会委員
- 新 JCS 親委員会委員・WG 委員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム文字対応 WG 委員・文字情報 WG 委員

#### ウ. 教育活動

- 山口大学非常勤講師
- 早稲田大学非常勤講師

### 5 その他

- 「資格の「士」と「師」、違いは」、『朝日新聞』大阪本社版, 2002 年 4 月
- 「にほん語 現在形→未来形」、『河北新報』, 2002 年 7 月
- 「漢字の小宇宙」、『読売とれんど』(G+), 2002 年 8 月
- 「漢字よ どこに行く」、『JAL FAMILY LETTER』, 2002 年夏
- 「絵文字の謎」, クローズアップ現代 制作班『クローズアップ現代 2002』(日本出版放送協会), 2002 年 12 月
- 「日めぐり」、『読売新聞』, 2003 年 2 月
- 「新日本語の現場 133」、『読売新聞』夕刊, 2003 年 3 月



## 柏野和佳子 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (現代雑誌 200 万字言語調査／分類語彙表)
- 分かりにくい外来語の言い換え提案
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) アジア圏理工系留学生のための多言語対応辞書を装備した日本語学習支援システム開発 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表 増補改訂版— (国立国語研究所資料集 14)』, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

### 4 所外活動

#### A. 所外委員会

- 情報処理学会 学会試行標準／WG3 委員会〔解析・生成用日本語電子化辞書形式〕委員
- 新情報処理開発機構 (RWC) 「コーパスの作成と公開に関するワーキンググループ」

#### イ. 学会活動

- 言語処理学会評議員
- 情報処理学会自然言語処理研究会連絡委員

## 小椋秀樹 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (太陽コーパス)
- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (話し言葉コーパス)
- 科学研究費補助金 若手研究 (B) 書簡文研究資料としての明治期往来物の収集と資料的性格の分析 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「20 世紀初期総合雑誌コーパス」の構築による確立期現代語の高精度な記述 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方は今一』問答 2 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「手紙の構造と意味 —明治期の手紙文例集を資料として—」, 『國文學 —解釈と教材の研究—』 Vol.47 No.11, pp.76-80, 學燈社, 2002 年 9 月
- 「樋口一葉の書いた手紙文例集」, 『文教ニュース』 No.1714, p.39, 文教ニュース社, 2003 年 2 月

#### E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 小椋秀樹, 小木曾智信, 近藤明日子: 「「太陽コーパス」を使った近代語表現の通時的研究 —口語文体・可能表現・待遇表現について—」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.177-184, 国語学会, 2002 年 5 月

#### F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「書簡文研究資料としての明治期女子用往来物」, 第 199 回近代語研究会, 2002 年 11 月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第 10 回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 企画・運営
- 第 12 回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 企画・運営

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ 語彙・文型表』, 刊行物検討委員会委員
- 『新「ことば」シリーズ』, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会 新「ことば」シリーズ部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員
- レクリエーション委員会委員

#### 4 所外活動

##### ウ. 教育活動

- 聖心女子大学文学部非常勤講師

#### 5 その他

- BSN 新潟放送「かぎとみ徹の熱烈ラジオショー」, 2002年2月



### 山口昌也 (研究員)

#### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (太陽コーパス)
- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (話し言葉コーパス)
- 分かりにくい外来語の言い換え提案
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 20世紀初期総合雑誌コーパスの構築による確立期現代語の高精度な記述 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

#### 2 成果公表活動

##### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 1件

##### E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 山口昌也, 田中牧郎: 「言語研究のための構造化テキストと検索支援システム — 「太陽コーパス」を例として—」, 『国語学会 2002年度春季大会要旨集』, pp.169-176, 国語学会, 2002年5月

#### 3 上記以外の所内業務

##### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 刊行物検討委員会委員
- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 企画・編集

##### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 評価部会研究活動一覧ワーキンググループ
- ネットワーク運営委員会委員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク運用管理部会員

#### 4 所外活動

##### ウ. 教育活動

- 東京理科大学工学部経営工学科第2部非常勤講師

## 小沼 悦 (研究補助員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築 (現代雑誌 200 万字言語調査／分類語彙表)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『分類語彙表 —増補改訂版— (国立国語研究所資料集 14)』, 2003 年 3 月

### 3 上記以外の所内業務

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 概要部会員

## 研究開発部門第二領域

### 前川喜久雄（領域長）

#### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 自発音声データに対する多面的アノテーション情報の XML 化に関する研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 特定研究 (A) 高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 特定研究 (B) 韻律に注目した音声言語情報処理の高度化 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築
- 戦略的基礎研究推進事業 (CREST) 発声力学に基づくタスクプランニング機構の構築 (分担者)

#### 2 成果公表活動

##### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方は今—』 問答 1 件, 2003 年 3 月

##### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「調音音声学から音声の物理学へ — 千葉勉・梶山正登の貢献 —」, 『日本音響学会誌』 Vol.58 No.7, pp.416–419, 日本音響学会, 2002 年 7 月
- 皆川泰代, 前川喜久雄, 桐谷滋: 「日本語学習者の長/短母音の同定におけるピッチ型と音節位置の効果」, 『音声研究』 Vol.6 No.2, pp.88–97, 日本音声学会, 2002 年 8 月
- 『日本語話し言葉コーパス』を用いた言語変異研究, 『音声研究』 Vol.6 No.3, pp.48–59, 日本音声学会, 2002 年 12 月
- “From articulatory phonetics to the physics of speech: Contribution of Chiba and Kajiyama”, *Acoustical Science and Technology* Vol.23 No.4, pp.185–188, Acoustical Society of Japan, 2002.7

##### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「話し言葉における長母音の短呼 — 『日本語話し言葉コーパス』を用いた音声変異の分析 —」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.43–50, 国語学会, 2002 年 5 月
- 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 山口昌也, 菊池英明, 間淵洋子, 土屋菜穂子, 斎藤美紀, 西川賢哉, 前川喜久雄: 「大規模自発音声コーパス『日本語話し言葉コーパス』の仕様と作成」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.225–232, 国語学会, 2002 年 5 月
- 「パラ言語情報研究の課題」, 『日本音響学会 2002 年秋季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.247–250, 日本音響学会, 2002 年 9 月
- 「話し言葉コーパスの利用可能性」, 『日本研究的深化と拓展』, pp.46–47, 北京日本学研究中心, 2002 年 9 月
- 菊池英明, 前川喜久雄: 「自発音声韻律ラベリングスキーム X-JToBI によるラベリング精度の検証」, 『日本音響学会 2002 年秋季研究発表会講演論文集』 No.1, pp.259–260, 日本音響学会, 2002 年 9 月
- 斎藤美紀, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「「ギジツ」と「ギジュツ」: 『日本語話し言葉コーパス』に基づく直音化現象の分析」, 『第 10 回社会言語科学学会研究大会予稿集』 Vol.1, pp.209–214, 社会言語科学会事務局, 2002 年 9 月
- 山住賢司, 籠宮隆之, 榎洋一, 前川喜久雄: 「講演音声の印象評定構造に関する因果モデルの検討」, 『日本音響学会 2002 年秋季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.255–256, 日本音響学会, 2002 年 9 月

- 小磯花絵, 斎藤美紀, 間瀬洋子, 前川喜久雄: 「話し言葉における助詞の撥音化現象の実態 —『日本語話し言葉コーパス』を用いて—」, 『第10回社会言語科学会研究大会予稿集』 Vol.1, pp.215-220, 社会言語科学会事務局, 2002年9月
- 藤本雅子, 前川喜久雄: 「発声様式に及ぼすパラ言語情報の影響 —高速ビデオ画像の解析—」, 『日本音響学会2002年秋季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.257-258, 日本音響学会, 2002年9月
- 菊池英明, 前川喜久雄: 「自発音声韻律ラベリングスキーム X-JToBI の能力検証」, 『人口知能学会研究会 SIG-SLUD』 Vol.A-202-06, pp.33-36, 人工知能学会, 2002年11月
- 山住賢司, 籠宮隆之, 榎洋一, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける講演の音声特徴と印象との関係について」, 『人口知能学会研究会 SIG-SLUD』 Vol.A-201-11, pp.65-70, 人工知能学会, 2002年11月
- 皆川泰代, 籠宮隆之, 前川喜久雄: 「長/短母音の時間制御特性 —自発音声コーパスの分析—」, 『日本音響学会2003年春季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.315-316, 2003年3月
- 藤本雅子, 前川喜久雄: 「パラ言語情報に関わる喉頭音源の音響的特徴」, 『日本音響学会2003年春季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.319-320, 日本音響学会, 2003年3月
- 籠宮隆之, 五十嵐陽介, 菊池英明, 米山聖子, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける Fo 下降開始位置の分析」, 『日本音響学会2003年春季研究発表会講演論文集』 Vol.1, pp.317-318, 日本音響学会, 2003年3月
- Kikuo Maekawa, Hideaki Kikuchi, Yosuke Igarashi, Jennifer Venditti: “X-JToBI: An extended J-ToBI for spontaneous speech”, *Proceedings of the 7th International Conference on Spoken Language Processing (ICSLP2002), Denver, Colorado USA* Vol.3, pp.1545-1548, 2002.9
- “Design, compilation, and preliminary analyses of the Corpus of Spontaneous Japanese”, *Proceedings of the NTT-Stanford workshop on concept and language processing*, pp.13-14, NTT-Stanford workshop on concept and language processing, 2002.9
- “Perception of paralinguistic information in a foreign language”, *Proceedings of Symposium on Prosody and Speech Processing* Vol.1, pp.165-168, 2003.1

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「脳研究への期待：パラ言語情報研究の立場から」, 日本音声学会第306回研究例会, 2002年12月
- “Outline of the Corpus of Spontaneous Japanese”, 第10回国語研究所国際シンポジウム第1部会「自発音声：データと分析（Spontaneous Speech: Data and Analysis）」, 2002.8
- “Perception of the paralinguistic information by non-native speakers”, *Linguistics and Phonetics* 2002, 2002.9

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「自発音声：データと分析」, 企画・運営
- 平成14年度 国立国語研究所研究発表会, 協力

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語2 —面接調査編— (国立国語研究所報告120)』, 協力

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 研究交流部会員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会委員
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員
- ネットワーク運営委員会委員

- 施設整備委員会委員
- 移転整備実施委員会委員

エ. 見学者への対応等 5 件

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 言語聴覚士試験委員

イ. 学会活動

- 日本音声学会評議員, 理事, 広報委員長, 国際交流委員長
- 査読 海外雑誌 8 件
- 査読 国内雑誌 3 件

5 その他

- (社) 電子情報技術産業協会音声入出力方式標準化委員会講師, 2002 年 4 月
- 総務省通信総合研究所に併任



## 尾崎喜光 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (学校敬語・敬意表現調査報告)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日韓新時代における若者の国際コミュニケーションのあり方と意識に関する研究 (代表者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『学校の中の敬語 2 一面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方言は今—』解説 1 件, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方言は今—』問答 1 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 2 件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 遠藤織枝, 尾崎喜光: 「調査の概要」, 現代日本語研究会 編 『男性のことば・職場編』, pp.9-32, ひつじ書房, 2002 年 7 月
- 「新しい丁寧語「(っ)す」」, 現代日本語研究会 編 『男性のことば・職場編』, pp.89-98, ひつじ書房, 2002 年 7 月
- 「敬語調査から何が引き出せて、何が引き出せないか」, 菊地康人 編 『朝倉日本語講座 8 敬語』, pp.139-158, 朝倉書店, 2003 年 3 月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「面接調査技法 一言葉の働きと効果—」, 総務省統計局統計基準部統計企画課 編 『平成 13 年度 統計調査員確保対策事業の現況』, pp.111-129, 2002 年 8 月

- 「「雨だわ」は女ことば…」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, pp.52-53, 明治書院, 2002年11月
- 「「OL」は外来語?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.107, 明治書院, 2002年11月
- 「用法に地域差が伴う言語表現に対する相互評価—関東と関西の比較—」, 『社会言語科学』 Vol.5 No.2, pp.58-73, 社会言語科学会, 2003年3月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語2—面接調査編— (国立国語研究所報告120)』, 刊行物検討委員会委員, 企画・編集
- 『新「ことば」シリーズ』, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会 新「ことば」シリーズ部会員

### 4 所外活動

#### ウ. 教育活動

- 文教大学文学部

### 5 その他

- 【コメント】「正しくなくとも伝わる敬意」『産経新聞』, 2002年4月
- 「<暮らしの中のことば>おじさん言葉」『NHK ラジオ第一放送 ラジオ深夜便』, 2002年6月
- 【コメント】「<いつの時代も (インタビュー)>敬語で進む変化、簡略化」『新潟日報』, 2002年6月
- 【コメント】「新・日本語の現場 27・28・32」『読売新聞』(取材記事), 2002年6月
- 【コメント】『NHK 総合テレビ』ニュース番組, 2002年6月
- 「<暮らしの中のことば>若者言葉」『NHK ラジオ第一放送 ラジオ深夜便』, 2002年8月
- 【コメント】「連載・日本語 現在形・未来形 6・7・9」『河北新報』, 2002年8-9月
- 「<暮らしの中のことば>言葉の男女差」『NHK ラジオ第一放送 ラジオ深夜便』, 2002年11月
- 「日本語の今」, ずし楽習塾講座講義, 神奈川県逗子市役所内, 2002年11月
- 「面接調査技法—言葉の働きと効果—」, 第19回新潟県統計大会講演, 新潟市新潟テルサ, 2002年11月
- 【コメント】「連載・エージレス時代(8) 言葉遣い 新たな秩序」『読売新聞』, 2003年1月
- 「<暮らしの中のことば>敬語についての日本人の意識」『NHK ラジオ第一放送 ラジオ深夜便』, 2003年3月
- 「面接調査技法—言葉の働きと効果—」, 平成14年度登録調査員中央研修講演(総務省統計局統計基準部), 新宿区ペアーレ新宿, 2003年3月



## 熊谷智子 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (学校敬語・敬意表現調査報告)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (分担者)

- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 日韓新時代における若者の国際コミュニケーションのあり方と意識に関する研究 (分担者)

## 2 成果公表活動

### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「ことばビデオ」シリーズ<豊かな言語生活をめざして> 2 解説書 コミュニケーションの「丁寧さ」/「ほめる」というはたらきかけ, 2003年3月
- 『学校の中の敬語 2 —面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 2003年3月

### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「ことばで人にはたらきかける —ものの言い方、話の進め方—」, 日本放送協会・日本放送出版協会 編 『NHK ナウンサーのはなすきくよむ』, pp.50-55, 日本放送出版協会, 2002年4月
- 「ポライトネス研究の多次元的な枠組みをめざして Mayumi Usami "Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a Universal Theory of Politeness" 2002 Hituzi Syobo」, 『社会言語科学』 Vol.5 No.1, pp.94-100, 社会言語科学会, 2002年9月
- 「シナリオのある会話 —ドラマの日本語の特徴—」, 『日本語学』 Vol.22 No.2, pp.6-14, 明治書院, 2003年2月

## 3 上記以外の所内業務

### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語 2 —面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 企画・編集
- 『日本語教師のための対照研究入門 (日本語教育ブックレット 3)』, 刊行物検討委員会委員
- 『第二言語習得の心理学的研究方法 (日本語教育ブックレット 4)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木 (国立国語研究所資料集 13-4)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉 (国立国語研究所資料集 13-5)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川 (国立国語研究所資料集 13-6)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第7巻 群馬・新潟 (国立国語研究所資料集 13-7)』, 刊行物検討委員会委員
- 『ことばビデオ』, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 「ことば」ビデオ作成部会長
- 大学院運営委員会 修士課程部会

## 4 所外活動

### イ. 学会活動

- 異文化間教育学会 紀要編集委員
- 日本語教育学会 学会誌委員

- The 4th SIGdial Workshop on Discourse and Dialogue プログラム委員
- 査読 国内雑誌 22 件

## 5 その他

- 「ことばで人にはたらきかける —ものの言い方、話の進め方—」, NHK ラジオ第 2 放送「NHK アナウンサーのはなすきくよむ」出演, 2002 年 6 月
- 「日本人の話し言葉のメカニズムを探る —ことばをくり返す、ことばを省く—」, 第 71 期 TEPCO セミナー講演, TEPCO 銀座館, 2002 年 11 月



## 大西拓一郎 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (方言文法全国地図)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A)(2) 消滅する方言文法・表現法の緊急調査研究 (分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『方言文法全国地図』と表現法, 『国立国語研究所平成 14 年度公開研究発表会 表現法の地理的多様性 —方言地図で見る表現法の世界— 予稿集』, pp.1-4, 2002 年 12 月
- 「方言表現法の分布類型と分布形成」, 『国立国語研究所平成 14 年度公開研究発表会 表現法の地理的多様性 —方言地図で見る表現法の世界— 予稿集』, pp.35-44, 2002 年 12 月
- 「方言地図とは何か」, 『国立国語研究所第 13 回「ことば」フォーラム「方言地図の見方・作り方」配付資料』, pp.1-8, 2003 年 1 月
- 「方言地図を作ってみよう」, 『国立国語研究所第 13 回「ことば」フォーラム「方言地図の見方・作り方」配付資料』, pp.17-27, 2003 年 1 月
- 「地図作りのデモンストレーション」, 『国立国語研究所第 13 回「ことば」フォーラム「方言地図の見方・作り方」配付資料』, pp.28-35, 2003 年 1 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』問答 2 件, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』座談会 1 件, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』コラム 2 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 馬瀬良雄, 佐藤亮一, 小林隆, 大西拓一郎 編 『方言地理学の課題』, 明治書院, 2002 年 5 月
- 佐藤亮一, 安部清哉, 大西拓一郎, 加藤和夫, 真田信治, 篠崎晃一, 徳川宗賢: 『方言の地図帳』, 小学館, 2002 年 7 月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「言語地図作製の電算化 —『方言文法全国地図』第五集を例に—」, 『日本語学』 Vol.21 No.11, pp.21-35, 明治書院, 2002 年 9 月
- 「方言」, 『国語学』 Vol.53 No.4, pp.104-114, 国語学会, 2002 年 10 月

- 「方言の危機と方言学」, 『学際』 No.7, pp.81-83, 2002年12月
- “Dialect research at the National Institute for the Japanese Language”, *Dialectologia et Geolinguistica(DiG)*, pp.87-96, Journal of International Society for Dialectology and Geolinguistics (Mouton de Gruyter), 2002.10

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「全国型資料と調査の課題 —JDnet 構想—」, 『方言地理学の課題』, pp.389-402, 明治書院, 2002年5月
- 「主要方言地図目録」, 『方言地理学の課題』, pp.446-465, 明治書院, 2002年5月
- 「方言学の学際的性格」, 『21世紀の方言学』, pp.141-150, 国書刊行会, 2002年6月
- 「全国方言の分布」, 『朝倉日本語講座10 方言』, pp.121-140, 朝倉書店, 2002年10月
- 「長野県秋山郷方言の無意志動詞の可能形」, 『消滅に瀕した方言語法の緊急調査研究(2)(科学研究費特定領域研究報告書)』, pp.139-152, 2002年12月
- 「方言のしくみ 文法(形態)」, 『ガイドブック方言研究』, pp.90-112, ひつじ書房, 2003年2月
- 「方言学とGIS」, 『人文科学とGIS』, pp.61-66, 富山大学人文学部GIS研究会, 2003年3月

#### E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「日本語方言文法の多様性と危機」, *Conference Handbook on Endangered Languages*, pp.194-199, 2002年11月
- 「方言における「コソ〜已然形」係り結びの沿革」, 『日本方言研究会第75回研究発表会発表原稿集』, pp.31-38, 日本方言研究会, 2002年11月

#### F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 「電算化言語地図の作成をめぐる」, 第100回変異理論研究会, 2002年11月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」, 企画・運営
- 平成14年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

#### I. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『ことばビデオ』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 概要部会員
- 普及広報委員会 「ことば」ビデオ作成部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員

### 4 所外活動

#### I. 学会活動

- 日本音声学会企画委員

#### ウ. 教育活動

- 東京女子大学非常勤講師

## 5 その他

- 「新日本語ノート」(共同通信配信) 4件, 2002年6月
- 「方言の魅力」, 千葉市民大学講演, 千葉市文化センター, 2002年7月
- 産経新聞「ありがとうの方言分布図」協力, 2002年7月
- TBSテレビ「いまだき日本語力(おはようグッデー)」出演, 2002年9月
- サンデー毎日「好きな故郷の方言」コメント, 2002年11月
- 読売新聞「関西文化考」コメント, 2003年3月



## 三井はるみ (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名(科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索(方言文法全国地図)
- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 大都市における消滅に瀕した伝統的方言の記録とデータベース作成(代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究(B)(1) 方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究(分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究(C)(2) 「談話資料」による方言コードの変容に関する研究(分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』解説1件, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』問答3件, 2003年3月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.21 No.6, pp.110-112, 明治書院, 2002年5月
- 「働きかけの表現の地域差へのアプローチ—禁止表現を例として—」, 『日本語学』 Vol.21 No.11, pp.36-47, 明治書院, 2002年9月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.21 No.13, pp.110-111, 明治書院, 2002年11月
- 「(小事典)ふるさとのことば 東京都」, 『月刊言語』 Vol.32 No.1, pp.54-55, 大修館書店, 2003年1月
- 「方言と共通語の同音類義語」, 『文教ニュース』 No.1715, pp.41-42, 文教ニュース社, 2003年2月

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「気づかない方言の方言学—対照方言学的研究の出発点として—」, 日本方言研究会編『21世紀の方言学』, pp.257-267, 国書刊行会, 2002年6月
- 「ケース5 アクセント」, 半沢幹一, 安部清哉, 小野正弘, 金子弘編『ケーススタディ日本語の歴史』, pp.30-35, おうふう, 2002年11月

#### E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「命令表現の分布と場面差」, 『平成14年度国立国語研究所公開研究発表会』, pp.25-34, 国立国語研究所, 2002年12月

#### F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 「方言地図の作り方」, 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」, 2003年1月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木（国立国語研究所資料集 13-4）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉（国立国語研究所資料集 13-5）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川（国立国語研究所資料集 13-6）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第7巻 群馬・新潟（国立国語研究所資料集 13-7）』, 刊行物検討委員会委員
- 『新「ことば」シリーズ』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 新「ことば」シリーズ部会長
- セクシャルハラスメント防止委員会委員

#### エ. 見学者への対応等 2件

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 1件

#### ウ. 教育活動

- 共立女子大学文芸学部非常勤講師
- 千葉大学教育学部非常勤講師

### 5 その他

- 朝日新聞(夕刊)「歩く 東京川の手の世界 4 東京の方言「葛西弁」(コメント), 2002年9月
- 河北新報「にほん語現在形未来形 14 第二部方言はいま 4 分布地図」, 2002年10月



## 当真千賀子 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (学校敬語・敬意表現調査報告)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (A)(2) 年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究 (研究分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 ―方言は今―』問答 1件, 2003年3月

## B 所員が執筆・編集した単行本

- 「執筆項目：発達最近接領域、精神内機能、精神間機能、媒介手段、スピーチジャンル、対話性、多声性、導かれた参加、活動理論」, 日本認知科学会 編 『認知科学辞典』, 共立出版, 2002年8月
- 「問題系としての実践コミュニティー —アメリカの小学校のなかの日本人—」, 田辺繁治・松田素二 編 『日常実践のエスノグラフィ —語り・コミュニティー・アイデンティティー—』, pp.118-141, 世界思想社, 2002年9月

## C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「コミュニケーションを育むとは」, 『日本語学』 Vol.21 No.5, pp.12-19, 明治書院, 2002年4月

## E 口頭・ポスター発表(予稿集あり)

- 「なぜディスカッションか：学生は何をどう学ぶか (ワークショップ 大学教育の中でのディスカッションの意義と役割)」, 『日本心理学会 第66回大会 発表論文集』, p.S46, 日本心理学会 第66回大会, 2002年9月
- 「「発達最近接領域」の概念的 위치づけとその対話的展開：日常実践をくぐって 神戸国際会議場 (兵庫教育大学主催)」, 『日本発達心理学会 第14回大会 発表論文集』, p.S05-4, 日本発達心理学会, 2003年3月
- “Conflicting meaning of being 'a math genius': At the cross point of school practice and life history /trajectory” (Presented at a symposium entitled “Culture, Cognition, and Identity: Examining Classroom Data Across Cultural Contexts”), Amsterdam, Netherland, *5th Congress of the International Society for Cultural Research and Activity Theory Book of Abstracts*, p.66, International Society for Cultural Research and Activity Theory, 2002.6

## F 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- 「「質的心理学研究」の最前線」(指定討論), 日本心理学会 第66回大会, 2002年9月
- 「実践が織り成す意味と価値：アメリカの小学校でのフィールドワークを通して」, 第2回フィールド心理学研究会 [共催 ライフストーリー研究会], 2002年12月
- “Hearership in teachers: re-designing interactions in learning situations” (指定討論), *5th Congress of the International Society for Cultural Research and Activity Theory*, 2002.6

## 3 上記以外の所内業務

## ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 日本語教育上級研修 レクチャーシリーズ 講師 (2002年7月)

## イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語教員養成における実習教育に関する調査研究 —アンケート調査結果報告—』, 刊行物検討委員会委員

## ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会員
- 図書館運営委員会 移転・公開部会員

## 4 所外活動

## ア. 所外委員会

- 国際文化フォーラム15周年記念プロジェクト企画委員
- 東京外国語大学アジア・アフリカ研究所 共同研究プロジェクト「社会空間と変容する宗教」共同研究員
- 東京学芸大学海外子女教育センター 研究プロジェクト「文化間移動と精神発達」委員

## イ. 学会活動

- 『発達心理学研究』（日本発達心理学会機関誌） 編集委員
- 日本心理学会関東地区議員
- 査読 国内雑誌 1 件

## ウ. 教育活動

- お茶の水女子大学人間生活学科集中講義講師
- 京都大学大学院教育学研究科集中講義講師
- 琉球大学教育学部集中講義講師



## 小磯花絵（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索（話し言葉コーパス）
- 科学研究費補助金 若手研究 (B) 韻律的特徴の持つ談話構造に関する情報伝達能力の解明 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 自発音声データに対する多元的アノテーション情報の XML 化に関する研究 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 1 件

#### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「あいづちを打つタイミング」, 『NHK アナウンサーのはなすきくよむ』, pp.194-199, 日本放送出版協会, 2002 年 4 月
- 「新しい「口」と「耳」」, 『文教ニュース』 No.1711, p.53, 文教ニュース社, 2003 年 1 月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 高梨克也, 小磯花絵, 渡邊良子: 「話し言葉コーパスへの談話構造タグの付与に基づく理論的問題の検討」, 『日本認知科学会第 19 回大会予稿集』, pp.114-115, 日本認知科学会, 2002 年 6 月
- 斉藤美紀, 小磯花絵, 前川喜久雄: 「「ギジツ」と「ギジュツ」: 『日本語話し言葉コーパス』に基づく直音化現象の分析」, 『社会言語科学会第 10 回研究大会予稿集』, pp.209-214, 社会言語科学会, 2002 年 9 月
- 小磯花絵, 斉藤美紀, 間瀬洋子, 前川喜久雄: 「話し言葉における助詞の撥音化現象の実態 — 『日本語話し言葉コーパス』を用いて—」, 『社会言語科学会第 10 回研究大会予稿集』, pp.215-220, 社会言語科学会, 2002 年 9 月
- 小磯花絵, 米山聖子, 楨洋一, Janice Fon: 「『日本語話し言葉コーパス』を用いた談話構造と韻律との関係に関する一考察」, 『人工知能学会研究会資料』 SIG-SLUD-A203, pp.139-144, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, 2003 年 3 月
- 森本郁代, 高梨克也, 竹内和広, 小磯花絵, 井佐原均: 「日本語話し言葉コーパスへの談話構造タグ付与」, 『言語処理学会第 9 回年次大会予稿集』, pp.695-698, 言語処理学会, 2003 年 3 月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「自発音声：データと分析」, 企画・運営
- 平成 14 年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会 公開研究発表会部会員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク基盤整備部会員

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 社会言語学会大会運営委員
- 査読 国内雑誌 2 件

### 5 その他

- 情報処理学会平成 14 年度山下記念研究賞, 2002 年 7 月
- NHK ラジオ「NHK アナウンサーの はなす きく よむ」出演, 2003 年 3 月



## 菊池英明 (特別奨励研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (話し言葉コーパス)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 自発音声データに対する多面的アノテーション情報の XML 化に関する研究 (分担者)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 山口昌也, 菊池英明, 間淵洋子, 土屋菜穂子, 斎藤美紀: 「大規模自発音声コーパス『日本語話し言葉コーパス』の仕様と作成」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.225-232, 国語学会, 2002 年 5 月
- 菊池英明, 前川喜久雄: 「自発音声韻律ラベリングスキーム X-JToBI によるラベリング精度検証」, 『日本音響学会講演論文集』, pp.259-260, 日本音響学会, 2002 年 9 月
- 菊池英明, 前川喜久雄: 「日本語自発音声韻律ラベリングスキーム X-JToBI の能力検証」, 『人工知能学会研究会資料』, pp.33-37, 人工知能学会, 2002 年 11 月

- 籠宮隆之, 五十嵐陽介, 菊池英明, 米山聖子, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける F0 下降開始点位置の分析」, 『日本音響学会 2003 年春季講演論文集』, pp.317-318, 日本音響学会, 2003 年 3 月



## 籠宮隆之 (特別奨励研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (話し言葉コーパス)
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 籠宮隆之, 小磯花絵, 小椋秀樹, 山口昌也, 菊池英明, 間淵洋子, 土屋菜穂子, 斎藤美紀, 西川賢哉, 前川喜久雄: 「大規模自発音声コーパス『日本語話し言葉コーパス』の仕様と作成」, 『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』, pp.225-232, 国語学会, 2002 年 5 月
- 山住賢司, 籠宮隆之, 槇洋一, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける講演特徴と印象との関係について」, 『人工知能学会研究会資料 SIG-SLUD』 Vol.A201, pp.65-70, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会 SIG-SLUD, 2002 年 6 月
- 山住賢司, 籠宮隆之, 槇洋一, 前川喜久雄: 「講演の印象評定構造に関する因果モデルの検討」, 『日本音響学会 2002 年秋季講演論文集』 Vol.I, pp.255-256, 日本音響学会, 2002 年 9 月
- 山住賢司, 籠宮隆之, 槇洋一, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける発話速度知覚と講演の評価の関係」, 『日本心理学会第 66 回大会発表論文集』, p.478, 日本心理学会, 2002 年 9 月
- 皆川泰代, 籠宮隆之, 前川喜久雄: 「長/短母音の時間制御特性—自発音声コーパスの分析—(1)」, 『日本音響学会 2003 年春季講演論文集』 Vol.I, pp.315-316, 日本音響学会, 2003 年 3 月
- 籠宮隆之, 五十嵐陽介, 菊池英明, 米山聖子, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける F0 下降開始点位置の分析」, 『日本音響学会 2003 年春季講演論文集』 Vol.I, pp.317-318, 日本音響学会, 2003 年 3 月

#### F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 籠宮隆之, 山住賢司, 槇洋一, 前川喜久雄: 「講演に対する印象評定の分析」, 日本音声学会第 305 回例会, 2002 年 6 月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「自発音声: データと分析」, 協力
- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」, 協力

### 4 所外活動

#### I. 学会活動

- 日本音声学会広報委員

## 西川賢哉（特別奨励研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索（話し言葉コーパス）
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 籠宮隆之，小磯花絵，小椋秀樹，山口昌也，菊池英明，間淵洋子，土屋菜穂子，斎藤美紀，西川賢哉，前川喜久雄：「大規模自発音声コーパス『日本語話し言葉コーパス』の仕様と作成」、『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』，pp.225-232，国語学会，2002 年 5 月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「自発音声：データと分析」，協力



## 齋藤美紀（特別奨励研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索（話し言葉コーパス）
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「終助詞「ね」の意味に関する一考察 — 「ね」の意味記述に聞き手の知識を含めることは不可能か—」、『言語情報科学』 No.1，pp.127-146，東京大学言語情報科学研究会，2003 年 4 月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 籠宮隆之，小磯花絵，小椋秀樹，山口昌也，菊池英明，間淵洋子，土屋菜穂子，斎藤美紀，西川賢哉，前川喜久雄：「大規模自発音声コーパス『日本語話し言葉コーパス』の仕様と作成」、『国語学会 2002 年度春季大会要旨集』，pp.225-232，国語学会，2002 年 5 月
- 斎藤美紀，小磯花絵，前川喜久雄：「『ギジツ』と『ギジュツ』：『日本語話し言葉コーパス』に基づく直音化現象の分析」、『第 10 回研究大会予稿集』，pp.209-214，社会言語科学会，2002 年 9 月
- 小磯花絵，斎藤美紀，間淵洋子，前川喜久雄：「話し言葉における助詞の撥音化現象の実態 — 『日本語話し言葉コーパス』を用いて—」、『第 10 回研究大会予稿集』，pp.215-220，社会言語科学会，2002 年 9 月

## 米山聖子（特別奨励研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索（話し言葉コーパス）
- 科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度採択課題 話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築

### 2 成果公表活動

#### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「心内辞書と語彙接近のための語彙表示について」、『音声研究』 Vol.6 No.2, pp.23-34, 日本音声学会, 2002年8月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 小磯花絵, 米山聖子, 榎洋一, Janice Fon: 「『日本語話し言葉コーパス』を用いた談話構造と韻律との関係に関する一考察」、『人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会予稿集』 Vol.SIG-SLUD No.A203, pp.139-144, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, 2003年3月
- 籠宮隆之, 五十嵐陽介, 菊池英明, 米山聖子, 前川喜久雄: 「自発音声コーパスにおける F0 下降開始点位置の分析」、『日本音響学会 2003 年春季講演論文集』 Vol.I, pp.317-318, 日本音響学会, 2003年3月
- “Abstract or Episodic or Both? An Investigation of Word Representation in the Lexicon”, *Linguistics and Phonetics*, [http://www.wata-net.com/proceedings/KiyokoYoneyama/LP2002Proceedings\\_yoneyama.pdf](http://www.wata-net.com/proceedings/KiyokoYoneyama/LP2002Proceedings_yoneyama.pdf), 2002.9

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「自発音声：データと分析」, 企画・運営

# 日本語教育部門

杉戸清樹（部門長）

## 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索（学校敬語・敬意表現調査報告）
- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究（日本語教育・学習環境調査，資料整理分析）
- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究
- 日本語教育研修
- 大学院教育

## 2 成果公表活動

### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育年鑑 2002 年版』，2002 年 6 月
- 『学校の中の敬語 2 ―面接調査編―（国立国語研究所報告 120）』，2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 ―方言は今―』問答 1 件，2003 年 3 月
- 『国語研の窓』1 件

### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「企業の中の敬語：大規模質問調査」，J.V. ネウストプニー，宮崎里司 編 『言語研究の方法』，pp.227-231，くろしお出版，2002 年 4 月

### C 学術雑誌，商業雑誌等に掲載された論文

- 「語り口の翻訳」，『NHK文研ニュースレター』 No.51, p.2, 日本放送協会放送文化研究所，2002 年 9 月
- 「多様性ゆえの「日本語ブーム」」，『月刊日本語』 Vol.16 No.2, p.17, アルク，2003 年 2 月

### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「敬語が豊かなコミュニケーション ―熊本の敬意表現調査から―」，第 11 回ことばフォーラム，2002 年 8 月
- 「日本人の言語行動を考える一つの手がかりとして ―国語研「ことばビデオ」について―」，北京日本学研究会センター研究会講演，2002 年 10 月

## 3 上記以外の所内業務

### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第 11 回ことばフォーラム「ことば探険・ことば発見」，協力

### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』，刊行物検討委員会委員長
- 『日本語教師のための対照研究入門（日本語教育ブックレット 3）』，刊行物検討委員会委員長
- 『第二言語習得の心理学的研究方法（日本語教育ブックレット 4）』，刊行物検討委員会委員長

- 『日本語教育論集』19号, 企画・編集
- 『分類語彙表—増補改訂版—(国立国語研究所資料集14)』, 刊行物検討委員会委員
- 『平成13年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ(バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 刊行物検討委員会委員長
- 『新「ことば」シリーズ』, 協力

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 研究企画調整部会長
- 研究計画委員会 刊行企画部会長
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会長
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 企画部会員
- ネットワーク運営委員会委員
- 大学院運営委員会委員
- 大学院運営委員会 企画調整部会長
- 大学院運営委員会 博士課程部会長
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員
- 所内「外来語」委員会委員
- 移転整備実施委員会委員
- 移転整備実施委員会 企画部会員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

#### エ. 見学者への対応等 2件

### 4 所外活動

#### ア. 所外委員会

- アジア福祉教育財団難民事業本部 定住難民日本語学習援助委員会 委員
- 国際日本語普及協会 地域日本語教育活動充実のための事業委員会 委員
- 日本国際教育協会 日本語教育能力検定試験実施委員会 委員
- 日本放送協会放送用語委員会 委員

#### イ. 学会活動

- 国語学会 評議員
- 社会言語科学会 理事・研究大会委員・事業委員
- 日本言語学会 委員
- 日本語教育学会 常任理事
- 日本方言研究会世話人
- 査読 国内雑誌1件

#### ウ. 教育活動

- 日本語教育学会教師研修 日本語教育研究コース 論文基礎 講師

## 5 その他

- 「説明のための言葉を持つ」 『月刊日本語』アルク社 インタビュー記事, 2002年7月
- 明治書院 月刊誌『日本語学』 編集委員

## 日本語教育部門第一領域

石井恵理子（領域長）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究（各種研修の実情情報の蓄積・分析）
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究（国内諸機関における学習と教育に関する情報の収集・分析、公表／日本語教育・学習環境調査、資料整理分析）
- 日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究
- 日本語教育研修（短期研修／長期研修）
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究（A）年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究（代表者）
- 科学研究費補助金 基盤研究（B）日韓新時代における若者の国際コミュニケーションのあり方と意識に関する研究（分担者）
- 科学研究費補助金 基盤研究（B）日本語教育を必要とする児童生徒の生活環境／日本語取得／第一言語保持／喪失の関係（分担者）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育年鑑 2002 年版』, 2002 年 6 月

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 学校教育における JSL カリキュラムの開発に係る協力者会議：文部科学省初等中等教育局国際教育課 編 『「JSL（第 2 言語としての日本語）カリキュラム」の開発「中間まとめ」』, 2002 年 8 月
- 「つくば市の日本語ボランティア」, つくばインターナショナルグループ（TIG）学校部 編 『Welcome to 日本語教室—外国からきた子どもたちに日本語を教えるボランティア—』, pp.224-227, 明石書店, 2003 年 3 月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「敬語があるのは日本語だけですか?」, 『日本語学 日本語あれこれ事典』 Vol.21 No.14, pp.38-39, 明治書院, 2002 年 11 月
- 「外国人が日本語を学ぶとき一番難しいのは?」, 『日本語学 日本語あれこれ事典』 Vol.21 No.14, pp.42-43, 明治書院, 2002 年 11 月
- 「コミュニケーションを目指した日本語教育の視点」, 『日本研究』 No.18, pp.53-64, 韓国中央大学校日本研究所, 2003 年 2 月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「多文化コミュニティとしての日本語クラス—規範意識の調整を中心として—」, pp.82-83, 第 23 回異文化間教育学会, 2002 年 6 月
- 「コミュニケーションを目指した日本語教育の視点」, pp.41-51, 第 17 回国際学術発表会「言語教育とコミュニケーション」, 2002 年 7 月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教育年鑑 2002 年版』, 企画・編集

- 『日本語教育論集』19号、刊行物検討委員会委員
- 『平成13年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ（バンコック）アンケート調査集計結果報告書』、協力

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 評価部会員
- 研究計画委員会 刊行企画部会員
- 普及広報委員会委員
- 大学院運営委員会委員
- 大学院運営委員会 企画調整部会員
- 大学院運営委員会 修士課程部会長
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員
- セクシャルハラスメント防止委員会委員
- 移転整備実施委員会委員

### 4 所外活動

#### ア. 所外委員会

- 海外協力事業団「日系社会シニア・ボランティア派遣事業」選考委員
- 国際交流基金平成14年度「海外日本語教育教育支援 NGO 助成」審査委員
- 文化庁学校の余裕教室等を活用した親子参加型の日本語教室の開設事業企画・評価会議協力者
- 文化庁地域日本語教育活動の充実方策に関する調査研究協力者
- 文部科学省学校教育における JSL カリキュラムの開発に係る協力者会議本会議委員、同理科部会委員

#### イ. 学会活動

- 日本語教育学会評議員
- 査読 国内雑誌 5 件

#### ウ. 教育活動

- 東北大学大学院非常勤講師

### 5 その他

- 「第二言語としての日本語教育 —多様な日本語学習のあり方を考える—」, みどり日本語の会日本語ボランティア研修会, 横浜市青葉国際交流ラウンジ, 2002年5月
- 「プレゼンテーションとその必要性について」, 埼玉県教育委員会学校経営とプレゼンテーション～リーダーのための話力向上講座～, 埼玉県教員研修センター深谷支所, 2002年7月
- 「異文化コミュニケーションのための日本語教育」, 韓国啓明大学校夏季日本語研修, 学習院大学, 2002年7月
- 「効果的な話し方と表現法」, 埼玉県教育委員会学校経営とプレゼンテーション～リーダーのための話力向上講座～, 埼玉県教員研修センター深谷支所, 2002年7月
- 「日本語教育フォーラム」パネリスト及び分科会1司会, 岡山外語学院創立10周年記念日本語教育フォーラム, サンビーチ岡山, 2002年8月
- 文部科学省外国人児童生徒等日本語指導講習会におけるワークショップ及び指導助言, 青山ホテルフロラシオン, 2002年8月
- 「言語習得(理論)」(ことばと教育 —母語保持, 2つの言語を学ぶ過程を教師と保護者はどのように見守るべきか—), 文化庁委嘱地域日本語支援コーディネータ研修, 名古屋国際センター, 2002年9月

- 「双方向の視点を育てる日本語教育」, 京都橋女子大学開学 35 周年記念事業シンポジウム「新世紀の外国語教育」, 京都キャンパスプラザ, 2002 年 9 月
- 「異文化コミュニケーションのための日本語教育」, 福岡 NVN / 小さな国際交流の会日本語教室ボランティア・スタッフ勉強会, 福岡市 NPO・ボランティア交流センター, 2002 年 10 月
- 「地域日本語支援活動と人材育成」, 文化庁委嘱地域日本語支援コーディネータ研修, 博多リバレイン・リバーサイト, 2002 年 10 月
- 「日本語指導の課題からみた国際理解教育」, 町田市教育委員会人権尊重研修会, 町田市すみれ会館, 2002 年 10 月



## 井上 優 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究 (各種研修の実情情報の蓄積・分析)
- 日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究 (アジア版対訳コーパス/欧米版対訳コーパス)
- 日本語教育研修 (短期研修)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(1) 方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) 東アジア諸語のカテゴリー化と文法化に関する対照研究 —多様性から普遍性へ— (分担者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教師のための対照研究入門 (日本語教育ブックレット 3)』, pp.1-64, 2003 年 3 月
- 「パーフェクトの「(モウ) シタ」について」, 井上優 編『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究 (科学研究費補助金基盤研究 (C)(2) 研究成果報告書)』, pp.19-34, 2003 年 3 月
- 「日本語の「のだ」文と中国語の“的”構文」, 井上優 編『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究 (科学研究費補助金基盤研究 (C)(2) 研究成果報告書)』, pp.103-112, 2003 年 3 月
- 井上優 編『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究 (科学研究費補助金基盤研究 (C)(2) 研究成果報告書)』, pp.1-196, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』問答 2 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』2 件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 『日本語文法のしくみ』, pp.1-188, 研究社, 2002 年 4 月
- 項目執筆, 小池清治, 小林賢次, 細川英雄, 山口佳也 編『日本語表現・文型事典』, 朝倉書店, 2002 年 10 月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「対照研究のすすめ」, 大連外国語大学日本文化研究中心 編『日本文化論叢 (第二回中日文化教育研究フォーラム報告書)』 No.2, pp.18-31, 大連理工大学出版社, 2002 年 11 月
- 「書評: 張麟声著「日本語教育のための誤用分析: 中国語話者の母語干渉 20 例」」, 第二言語習得研究会 編『第二言語としての日本語の習得研究』 No.5, pp.133-143, 第二言語習得研究会, 2002 年 12 月

- 「新刊・寸感（表現を味わうための日本語文法，新語はこうしてつくられる）」、『日本語学』 Vol.21 No.15, pp.112-113, 明治書院, 2002年12月
- 「文接続の比較対照—日本語と中国語—」,『言語』 Vol.32 No.3, pp.54-59, 大修館書店, 2003年2月
- 「書評：金水敏・工藤真由美・沼田善子著『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』」,『国語学』 Vol.54 No.2, pp.81-90, 国語学会, 2003年3月

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「“是 ma?” に関する覚え書」, 定延利之 編『「うん」と「そう」の言語学』, pp.61-74, ひつじ書房, 2002年11月
- 井上優, 生越直樹, 木村英樹：「テンス・アスペクトの比較対照—日本語・朝鮮語・中国語—」,『シリーズ言語科学 4 対照言語学』, pp.125-159, 東京大学出版会, 2002年11月
- 「「テンスの有無」と文法現象—日本語と中国語—」, 筑波大学現代言語学研究会 編『次世代の言語研究 II』, pp.25-39, 筑波大学現代言語学研究会, 2002年12月
- 「第6章 方言のしくみ：文法（語法・意味）」, 小林隆, 篠崎晃一 編『ガイドブック方言研究』, pp.113-137, ひつじ書房, 2003年2月

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「日本語教師のための対照研究入門」, 日本語教育短期研修第2回「対照研究の成果を活かすために」（北海道大学）, 2002年7月
- 「方言文法の対照研究—標準語の「のだ」と富山県方言の「ガヤ」—」, 北京日本学研究中心 2002年国際シンポジウム, 2002年9月
- 「「のだ」文と“的”構文」, 日本中国語学会 パネルディスカッション「隣接領域から見た中国語学」（金沢大学）, 2002年10月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」, 協力
- 日本語教育短期研修第1回「学習の多様性を探る—学習リソースの再検討—」(運営)
- 日本語教育短期研修第2回「対照研究の成果を活かすために」(運営, 講演)
- 日本語教育短期研修第3回「日本語教育とコンピュータ—コンピュータによる自由作文の自動評価システム」(運営)
- 日本語教育短期研修第4回「論理的文章作成能力の育成に向けて」(運営)
- 日本語教育短期研修第6回「地域における日本語教育—視聴覚教材利用の可能性—」(運営)

#### I. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語 2—面接調査編—（国立国語研究所報告 120）』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語教師のための対照研究入門（日本語教育ブックレット 3）』, 刊行物検討委員会委員, 企画・編集
- 『第二言語習得の心理学的研究方法（日本語教育ブックレット 4）』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語教育論集』19号, 協力
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木（国立国語研究所資料集 13-4）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉（国立国語研究所資料集 13-5）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川（国立国語研究所資料集 13-6）』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第7巻 群馬・新潟（国立国語研究所資料集 13-7）』, 刊行物検討委員会委員

- 『国語研の窓』, 企画・編集
- 『新「ことば」シリーズ』, 協力
- 『日本語科学』, 協力

ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 国語研の窓部会長

エ. 見学者への対応等 1 件

4 所外活動

ア. 所外委員会

- 国語学会編集委員
- 日本語教育学会査読協力者
- 日本語文法学会学会誌委員

イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 29 件

ウ. 教育活動

- 神戸大学非常勤講師
- 神田外語大学非常勤講師
- 東京大学非常勤講師



**金田智子** (主任研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究 (各種研修の実情情報の蓄積・分析)
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 (日本語教育・学習環境調査, 資料整理分析)
- 日本語教育研修 (短期研修/長期研修)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2) 日本語コミュニケーション能力の養成に関する教師の実践的知識の研究 (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『平成 13 年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 2003 年 3 月
- 『日本語教育論集』 19 号, 2003 年 3 月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 一方言は今一』 問答 1 件, 2003 年 3 月
- 『国語研の窓』 1 件

**B 所員が執筆・編集した単行本**

- 足立章子, 金田智子, 鈴木有香, 武田聡子: 『初級から中級への橋渡しシリーズ2 文法が弱いあなたへ』, 凡人社, 2002年5月

**C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文**

- 「ホームページ作成による発信型授業の試み—日本事情教育の可能性を探る—」, 水谷修・李徳奉 編 『総合的日本語教育を求めて』, pp.555-570, 国書刊行会, 2002年5月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.21 No.10, pp.100-102, 明治書院, 2002年8月
- 「新刊・寸感」, 『日本語学』 Vol.22 No.2, pp.106-107, 明治書院, 2003年2月

**E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)**

- 「教師の会話を分析する—Post-observation conference の実際—」, 『2002年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, pp.229-230, 日本語教育学会, 2002年10月

**F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)**

- 「なぜ授業観察・授業分析か」, 日本語教育上級研修レクチャー第1回, 2002年5月
- 「教師の会話—言語教師は何をいかに語るのか—」, 日本総合学会, 2002年10月
- 足立祐子, 松岡洋子, 金田智子: 「地域の日本語教室での映像を用いた教室活動」, 第6回日本語教育短期研修(第6回視聴覚教材フォーラム), 2003年3月

**3 上記以外の所内業務****ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等**

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語教師教育を考えるⅡ: 教師についての評価」, 協力
- 第6回視聴覚教材フォーラム「地域における日本語学習支援—視聴覚教材利用の可能性—」, 企画・運営

**イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等**

- 『日本語教育年鑑 2002年版』, 協力
- 『日本語教師のための対照研究入門 (日本語教育ブックレット3)』, 協力

**ウ. 研究支援等**

- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会員
- 大学院運営委員会 博士課程部会員
- セクシャルハラスメント防止委員会委員

**4 所外活動****ア. 所外委員会**

- 文化庁「情報通信技術 (IT) を活用した日本語教育の在り方に関する調査研究」協力者

**イ. 学会活動**

- 広島大学留学生センター客員研究員
- 日本総合学会評議員
- 査読 国内雑誌4件

ウ. 教育活動

- 徳島大学総合科学部非常勤講師（集中講義）



福永由佳（研究員）

1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究（各種研修の実情情報の蓄積・分析）
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究（映像教材の活用に関する研究会等の開催，実践例の収集／教師教材についての教師用指導参考書刊行／国内諸機関における学習と教育に関する情報の収集・分析，公表）
- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（日本語教育年鑑）
- 日本語教育研修（長期研修）
- 科学研究費補助金 基盤研究（C）日本語コミュニケーション能力の養成に関する教師の実践的知識の研究（代表者）
- 科学研究費補助金 基盤研究（C）日本語学習者と環境との相互作用に関する研究（分担者）

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「学習者と学習環境の相互作用をめぐって—学習者条件の記述—」、『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成』論文集』第4巻，pp.527-563，国立国語研究所，2003年3月
- 『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ 語彙・文型表』，2003年3月
- 永山友子，武田誠，土井真美，福永由佳：「「接触場面」における談話における「確認」」、『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成』論文集』第2巻，pp.275-299，国立国語研究所，2003年3月

E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 松岡洋子，足立祐子，植木正裕，福永由佳：「日本語学習支援者のための自己研修ソフト」，*CASTEL/J Proceedings*，pp.233-236，CASTEL/J 2002，2002年7月
- 浜田麻里，林さと子，福永由佳，文野峯子，宮崎妙子，岡良和：「学習支援システムの構築と言語政策—日本語学習者と学習環境との相互作用調査から—」、『第1回日本言語政策学会研究発表会 資料』，pp.23-24，第1回日本言語政策学会，2002年11月

3 上記以外の所内業務

ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 「第6回日本語教育短期研修・第6回視聴覚教材フォーラム」の企画・運営・司会

イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成』論文集』，企画・編集
- 『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ 語彙・文型表』，刊行物検討委員会
- 『日本語教育年鑑 2002年版』，協力
- 『日本語科学』，企画・編集

ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員

## 4 所外活動

## ウ. 教育活動

- 島根大学非常勤講師



## 杉本明子 (研究員)

## 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究 (各種研修の実情情報の蓄積・分析)
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 (日本語教育・学習環境調査, 資料整理分析)
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育研修 (短期研修)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) インターネット・マルチメディアを利用した日本語教育実践の可能性と効果に関する研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 日本語教育における評価法に関する基礎的資料整備とその分析 (分担者)

## 2 成果公表活動

## A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『第二言語習得の心理学的研究方法 (日本語教育ブックレット 4)』, 2003年3月

## B 所員が執筆・編集した単行本

- 「職場における相互理解の談話構造」, 現代日本語研究会 編 『男性のことば・職場編』, pp.179-205, ひつじ書房, 2002年7月

## C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「小論文を評価するコンピュータ」, 『文教ニュース』 No.1716, p.63, 文教ニュース社, 2003年2月

## E 口頭・ポスター発表 (予稿集あり)

- 杉本明子, 柏崎秀子: 「電子メールによる議論の発話構造と機能 —日本語学習者のグループ・コミュニケーションの分析—」, 『電子情報通信学会技術研究報告, TL, 思考と言語』 Vol.102 No.92, pp.13-18, 電子情報通信学会, 2002年5月
- 「職場における相互理解の談話構造 —質問・応答・説明・主張を理解するためのコミュニケーション過程の分析—」, 『第10回社会言語科学学会大会発表論文集』, pp.179-184, 社会言語科学学会, 2002年9月
- 「職場における相互理解のコミュニケーション構造 —否定・反論に対応する言語行動の分析—」, 『日本教育心理学会第44回総会発表論文集』, p.433, 日本教育心理学会, 2002年10月

## F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 「イギリスの言語テスト (Cambridge Examinations) とヨーロッパの言語テストの共通枠組み (ALTE Framework)」, 言語テスト研究委員会, 2002年4月
- 「ヨーロッパの言語テスト」, 第14回「ことば」フォーラム, 国立国語研究所, 2003年3月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 平成 14 年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教師のための対照研究入門 (日本語教育ブックレット 3)』, 刊行物検討委員会委員
- 『第二言語習得の心理学的研究方法 (日本語教育ブックレット 4)』, 刊行物検討委員会委員, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会 公開研究発表会部会員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 電子情報通信学会 思考と言語研究会 (12 月) 企画・運営
- 日本語教育学会 学会誌委員
- 査読 国内雑誌 4 件

#### ウ. 教育活動

- (財) NHK 放送研修センター日本語教師養成セミナー非常勤講師

### 5 その他

- 「今、問われる日本語試験 —欧州の言語テストの作成・研究から日本語能力テストへの示唆—」, 日本語教育新聞 第 14 号取材協力, 2003 年 3 月



## 菅井英明 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究 (各種研修の実情情報の蓄積・分析)
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 (日本語教育・学習環境調査, 資料整理分析)
- IT を活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育研修 (長期研修)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 日本語教育における評価法に関する基礎的資料整備とその分析 (代表者)

### 2 成果公表活動

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「描写する形容詞と因果関係を築く動詞」, 『文教ニュース』 No.1709-1710, pp.63-64, 文教ニュース社, 2003 年 1 月

- 「大規模標準化言語テストの現状と動向」、『東呉外語学報』 No.18, pp.211-234, 東呉大学出版, 2003年3月
- 「社会的統合政策に基づく異文化間教育導入の課題」、『異文化コミュニケーション研究』 No.15, pp.1-16, 神田外語大学, 2003年3月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「社会的統合政策に対する異文化間教育者の理解の必要性」、『グローバリゼーションの中の日本：理解と誤解の間で』, pp.21-24, 第12回 異文化コミュニケーション研究所 夏期セミナー, 2002年8月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「環太平洋地域における日本語の地位」, 企画・運営
- 第11回ことばフォーラム「ことば探険・ことば発見」, 企画・運営
- 第14回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」, 企画・運営

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員

### 5 その他

- 「言語テストの現状」, 神田外語大学留学生別課講演, 2002年11月
- 「言語（日本語テスト）の役割とその作成法」, 福岡市愛和愛和外語学院講演, 2003年3月



## 宇佐美 洋（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究（各種研修の実情情報の蓄積・分析）
- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（日本語教育年鑑）
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究（アジア版対訳コーパス/欧米版対訳コーパス）
- 日本語教育研修（短期研修/長期研修）
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究(B) 日本語学習者による日本語発話と、母語発話との対照データベース（代表者）
- 東京外国語大学 AA 研重点共同研究プロジェクト 音韻に関する通言語的研究（共同研究員）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』問答1件, 2003年3月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「すみません」には「ありがとう」の意味があるの?」, 『日本語学 臨時増刊号 日本語あれこれ事典』 Vol.21 No.14, p.123, 明治書院, 2002年11月

- 「ローマ字で姓名を書くのになぜ反対にするの?」, 『日本語学 臨時増刊号 日本語あれこれ事典』 Vol.21 No.14, pp.156-157, 明治書院, 2002年11月
- 「「オーノ」氏の懊悩に満ちた選択」, 『文教ニュース』 No.1717, p.57, 文教ニュース社, 2003年3月

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「XMLによる作文添削情報表示システムの開発と、その応用」, 『2002年度日本語教育学会春季大会予稿集』, pp.231-232, 日本語教育学会, 2002年5月
- 「意見文論理構造のヴィジュアル表示システム—日本語作文教育での活用方法—」, *CASTEL/J 2002 Proceedings, "Computer Technology and Japanese Language Education"*, pp.201-204, CASTEL/J, 2002年7月

### 3 上記以外の所内業務

#### A. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第2回 日本語教育短期研修「対照研究の成果を日本語教育に活かすために」協力
- 第4回 日本語教育短期研修「論理的文章作成能力育成に向けて」企画・運営

#### I. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語教育年鑑 2002年版』, 協力

#### U. 研究支援等

- 普及広報委員会 「ことば」ビデオ作成部会員
- 図書館運営委員会 移転・公開部会員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク運用管理部会員

### 4 所外活動

#### I. 学会活動

- 査読 国内雑誌2件

#### U. 教育活動

- 大東文化大学非常勤講師

### 5 その他

- 「タイ語・日本語対照言語学」, 東京日本語学校 日本語教師夏季集中セミナー 対照言語研究特別講座, 2002年8月
- 「「作文対訳 DB」の応用と今後の発展」, お茶の水女子大学特別講義, 2002年12月

## 小河原義朗 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究 (各種研修の実情情報の蓄積・分析/国内諸機関における教師教育に関する情報の収集・分析)
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 (日本語教育・学習環境調査, 資料整理分析)
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究 (アジア版対訳コーパス/欧米版対訳コーパス)
- 日本語教育研修 (長期研修)
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 若手研究 (B) 日本語非母語話者の話す日本語の発音に対する日本人評価に関する基礎的研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A) 高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究 (協力者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教員養成における実習教育に関する調査研究 —アンケート調査結果報告—』, 2002年8月
- 『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 2003年3月

#### F 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

- 才田いずみ, 小河原義朗, 高橋亜紀子, 川添良幸, 平田直哉, 井口寧, 神山博: 「相づち学習用ウェブ教材と学習者の反応」, 平成14年度第1回特定領域研究領域全体会議, 2002年7月
- 「自己モニターを利用した音声教育教科書の作成 —妥当な基準の検討—」, 第4回日本語音声教育方法研究会, 2002年10月
- 才田いずみ, 高橋亜紀子, 平田直哉, 小河原義朗, 川添良幸: 「韻律に留意した相づち学習用ウェブ教材の利用とその効果」, 平成14年度第2回特定領域研究領域全体会議, 2003年1月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 日本語教育短期研修・協力

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教育論集』19号, 企画・編集
- 『日本語教員養成における実習教育に関する調査研究 —アンケート調査結果報告—』, 刊行物検討委員会委員, 企画・編集
- 『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 刊行物検討委員会委員, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員
- レクリエーション委員会委員

#### 4 所外活動

##### イ. 学会活動

- 日本語教育学会研究集会委員会中央委員
- 日本語教育方法研究会運営委員
- 査読 国内雑誌 7 件

#### 5 その他

- 東北外国語専門学校日本語課研修会講師「音声教育を考える」, 2002 年 8 月
- 共同通信「新日本語ノート」執筆, 2002 年

# 日本語教育部門第二領域

柳澤好昭（領域長）

## 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究（各種研修の実情情報の蓄積・分析／国内諸機関における教師教育に関する情報の収集・分析）
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究（日本語教育・学習環境調査、資料整理分析）
- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（日本語教育年鑑）
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成（バーチャル日本語情報資料館システム／日本語教育教材の素材提供／日本語教育支援総合ネットワーク）
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育研修（遠隔研修）
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究（A）年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究（分担者）
- 科学研究費補助金 基盤研究（C）日本語教育における評価法に関する基礎的資料整備とその分析（分担者）

## 2 成果公表活動

### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育年鑑 2002 年版』, 2002 年 6 月

### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「数字で見る日本の外国人」, 『日本語学』 Vol.21 No.6, pp.78-90, 明治書院, 2002 年 5 月

### D 論文集等に掲載された論文

- 「日本語教育とコンピュータ」, 『韓日語文論輯』 No.6, pp.88-93, 韓日語日文学会, 2002 年 8 月

## 3 上記以外の所内業務

### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語教師教育を考えるⅡ：教師についての評価」, 企画・運営

### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 研究交流部会員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会委員
- 図書館運営委員会委員
- ネットワーク運営委員会委員
- 大学院運営委員会 修士課程部会
- 施設整備委員会委員
- 移転整備実施委員会委員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

#### 4 所外活動

##### ア. 所外委員会

- (社) 日本語教育学会調査研究委員会委員長
- 文化庁文化部国語課情報通信技術 (IT) を活用した日本語教育の在り方に関する調査研究協力者会議委員

##### イ. 学会活動

- (社) 日本語教育学会評議員

##### ウ. 教育活動

- 高知大学非常勤講師
- 朝日カルチャーセンター日本語科非常勤講師

#### 5 その他

- 富山大学留学生センター第3回教育・研究フォーラム講師, 2002年11月
- ドイツ語圏大学日本語教育研究会第9回シンポジウム講演, 2003年3月



### 島村直己 (主任研究員)

#### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 (日本語教育・学習環境調査, 資料整理分析)
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 漢字能力検定協会助成研究 (代表)

#### 2 成果公表活動

##### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「調査研究の方法論」, 全国大学国語教育学会 編 『国語教育学研究の成果と展望』, pp.466-471, 明治図書, 2002年6月
- 島村直己, 矢部玲子: 『教育基本語彙データベースを利用した常用漢字の指導語例集 (日本漢字能力検定協会助成研究)』, 2003年2月

##### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「教育基本語彙と漢字の機能度」, 日本漢字能力検定協会 編 『漢字教育研究』 No.2, pp.145-156, 日本漢字能力検定協会, 2002年9月
- 「近代日本のリテラシー (2) —学齢児童の府県別就学率—」, 『言語生活研究』 No.2, pp.1-22, 島村直己, 2002年11月
- 「幼児の文字力の発達と話しことば行動・書きことば行動の発達」, 『言語生活研究』 No.2, pp.23-36, 島村直己, 2002年11月
- 「壮丁教育調査の実施経緯について」, 『言語生活研究』 No.2, pp.37-50, 島村直己, 2002年11月
- 「比率の区間推定」, 『言語生活研究』 No.2, pp.51-54, 島村直己, 2002年11月
- 「専門学校生の国語力」, 札幌大学文化学部 編 『比較文化論叢 (札幌大学文化学部紀要)』 No.11, pp.1-18, 札幌大学文化学部, 2003年3月

## E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 島村直己ほか：「大学生の方言意識 —全国 34 大学調査結果報告—」，全国大学国語教育学会，2002 年 5 月
- 「大学生の国語力」，日本読書学会，2002 年 8 月
- 「壮丁教育調査の実施経緯について」，日本教育社会学会，2002 年 10 月
- 島村直己，矢部玲子：『「教育基本語彙データベースを利用した常用漢字の指導語例集」の作成』，全国大学国語教育学会，2002 年 10 月



## 植木正裕（研究員）

## 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語教育の教師教育の内容と方法に関する調査研究（各種研修の実情情報の蓄積・分析）
- 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究（映像教材の活用に関する研究会等の開催，実践例の収集／教師教材についての教師用指導参考書刊行）
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成（バーチャル日本語情報資料館システム／日本語教育支援総合ネットワーク）
- IT を活用した日本語学習環境の整備
- 日本語教育研修（長期研修）
- 大学院教育

## 2 成果公表活動

## A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ 語彙・文型表』，2003 年 3 月
- 有賀千佳子，植木正裕，桜木紀子，玉置亜衣子：「基本語用例データベースの構想」，『「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」論文集』第 2 巻，pp.93-190，国立国語研究所，2003 年 3 月

## C 学術雑誌，商業雑誌等に掲載された論文

- 「ことばの意味とその広がり」，『文教ニュース』No.1721，pp.53-54，文教ニュース社，2003 年 3 月

## E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 松岡洋子，足立祐子，植木正裕，福永由佳：「日本語学習支援者のための自己研修ソフト」，*CASTEL/J Proceedings*，pp.233-236，CASTEL/J 2002，2002 年 7 月

## 3 上記以外の所内業務

## ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「環太平洋地域における日本語の地位」，協力
- 第 6 回日本語教育短期研修・第 6 回視聴覚教材フォーラム，企画・運営

## イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」論文集』，企画・編集

ウ. 研究支援等

- ネットワーク運営委員会委員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク基盤整備部会員

エ. 見学者への対応等 2件



**早田美智子 (研究員)**

**1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)**

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築 (日本語教育年鑑)
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成 (日本語教育教材の素材提供)
- ITを活用した日本語学習環境の整備

**2 成果公表活動**

**A 国立国語研究所を刊行元とするもの**

- 『日本語教育年鑑 2002年版』, 2002年6月

**3 上記以外の所内業務**

ウ. 研究支援等

- 図書館運営委員会 移転・公開部会員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員

# 情報資料部門

## 熊谷康雄（部門長）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費（データベース）『日本語地図』データベース（代表者）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2002 年版』, 2002 年 12 月
- 『国語研の窓』 1 件

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「計量的方言区画と方言地理学 —計量的方言区画のためのネットワーク法の開発を通して—」, 馬瀬良雄 監修 『方言地理学の課題』, pp.150-164, 明治書院, 2002 年 5 月
- 「まとめる・整える（統合・整理）」, 柴田武, 山田進 編 『類語大辞典』, pp.966-993, 講談社, 2002 年 11 月

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 柳沢好昭, 熊谷康雄: 「IT（情報通信技術）の実践的活用」, 文化庁日本語教育大会 日本語教育研究協議会 第 6 分科会, 2002 年 8 月
- 「日本語教育支援総合ネットワークシステム」, 衛星通信を活用した日本語教育研究協議会（文化庁）, 2002 年 11 月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第 4 巻 茨城・栃木（国立国語研究所資料集 13-4）』, 刊行物検討委員会委員長
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第 5 巻 埼玉・千葉（国立国語研究所資料集 13-5）』, 刊行物検討委員会委員長
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第 6 巻 東京・神奈川（国立国語研究所資料集 13-6）』, 刊行物検討委員会委員長
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第 7 巻 群馬・新潟（国立国語研究所資料集 13-7）』, 刊行物検討委員会委員長

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 研究企画調整部会員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会長
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 企画部会員
- 図書館運営委員会 移転・公開部会長

- ネットワーク運営委員会委員長
- 大学院運営委員会委員
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員長
- セクシャルハラスメント防止委員会委員長
- 所内「外来語」委員会委員
- 移転整備実施委員会委員
- 移転整備実施委員会 企画部会員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

エ. 見学者への対応等 1件

#### 4 所外活動

##### ア. 所外委員会

- (文化庁) 情報通信技術 (IT) を活用した日本語教育の在り方に関する調査研究協力者会議協力者



### 米田正人 (上席研究員)

#### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 言語使用・言語意識に関する行動計量学的研究
- ITを活用した日本語学習環境の整備

#### 2 成果公表活動

##### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差 ―方言は今―』問答1件, 2003年3月

#### 3 上記以外の所内業務

##### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「環太平洋地域における日本語の地位」, 企画・運営

##### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会委員
- 外国人等研究員 (ペーターバックハウス氏) 受入担当

#### 4 所外活動

##### ア. 所外委員会

- 農林水産省命名登録審査会委員

**イ. 学会活動**

- 日中コミュニケーション研究会事務局長
- 日本行動計量学会欧文誌編集委員

## 情報資料部門第一領域

### 伊藤雅光（領域長）

#### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築 (国語年鑑/新聞記事データベース/図書館システム/図書館目録データベース)
- 大学院教育

#### 2 成果公表活動

##### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2002 年版』, 2002 年 12 月

##### B 所員が執筆・編集した単行本

- 『計量言語学入門』, 大修館書店, 2002 年 4 月

##### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「半自動作詞実験のためのテキスト生成語彙表 —'80 年代前期の松任谷由実作品を素材テキストとして—」, 『計量国語学』 Vol.23 No.6, pp.296-329, 計量国語学会, 2002 年 9 月
- 「流行語の構造と意味」, 『国文学 解釈と鑑賞』 Vol.47 No.11, pp.81-87, 学燈社, 2002 年 9 月
- 「i モードの「i」ってどういう意味?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.104, 明治書院, 2002 年 11 月
- 「ケータイ、チューハイは、なぜ「ケイタイ」「チュウハイ」ではなく「ー」なの?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.160, 明治書院, 2002 年 11 月
- 「ワープロの仮名漢字変換はだれが発明したの?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, pp.210-211, 明治書院, 2002 年 11 月
- 「電子メールなどのフェイス・マークの起源はなに?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, pp.216-217, 明治書院, 2002 年 11 月

##### D 論文集等に掲載された論文

- 「第 2 章 語彙の量的性格」, 北原保雄 監修 斎藤倫明 編 『朝倉日本語講座 4 語彙・意味』, pp.29-53, 朝倉書店, 2002 年 10 月

##### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 「絶対語彙論と相対語彙論」, 『第 21 回研究発表会予稿集』, pp.27-33, 語彙辞書研究会第 21 回研究発表会, 2002 年 6 月
- 「創発的シンセシスシステムとしての自動作詞システム」, 『計量国語学会大会要旨集』, p.7, 計量国語学会, 2002 年 9 月

##### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「語彙史と字彙史」, 国語語彙史研究会第 72 回研究発表会, 2002 年 11 月

#### 3 上記以外の所内業務

##### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ 語彙・文型表』, 刊行物検討委員会委員

- 『分類語彙表—増補改訂版—(国立国語研究所資料集 14)』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 刊行企画部会員
- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部長
- 普及広報委員会委員
- 図書館運営委員会委員
- 図書館運営委員会 移転・公開部会員
- 施設整備委員会委員
- 情報公開委員会委員
- 移転整備実施委員会委員

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 計量国語学会理事, 庶務主任
- 語彙辞書研究会, 運営委員
- 国語学会編集委員, 編集委員長補佐
- 査読 国内雑誌 16 件

### 5 その他

- TBS はなまるマーケット, 2002 年 4-6 月



## 井上文子 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (方言文法全国地図)
- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築 (図書館システム/図書館目録データベース)
- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成 (研究資料のデジタル化)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「談話資料」による方言コードの変容に関する研究 (代表者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究 (分担者)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 大都市における消滅に瀕した伝統的方言の記録とデータベース作成 (分担者)
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費 (データベース) 全国方言談話データベース (分担者)
- 科学研究費補助金 特定領域研究 (A) 消滅する方言文法・表現法の緊急調査研究 (協力者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木 (国立国語研究所資料集 13-4)』, 2002 年 6 月

- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉（国立国語研究所資料集 13-5）』, 2002年9月
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川（国立国語研究所資料集 13-6）』, 2002年12月
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第7巻 群馬・新潟（国立国語研究所資料集 13-7）』, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』解説1件, 2003年3月
- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差—方言は今—』コラム1件, 2003年3月
- 『国語研の窓』1件

### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 「「ユエテ」から「ユッテ」へ—関西の音便の変化—」, 『文教ニュース』 No.1719, pp.43-44, 文教ニュース社, 2003年3月

### D 論文集等に掲載された論文

- 「方言研究文献の保存と活用」, 日本方言研究会 編 『21世紀の方言学』, pp.383-393, 国書刊行会, 2002年6月
- 「長野県・開田村方言のAspect形式「〜イル」について—談話資料における使用例—」, 真田信治 編 『消滅に瀕した方言語法の緊急調査報告(2) (科学研究費報告書)』, pp.153-165, 2002年12月

## 3 上記以外の所内業務

### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語科学』, 企画・編集
- 『学校の中の敬語2—面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 刊行物検討委員会委員
- 『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木 (国立国語研究所資料集 13-4)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉 (国立国語研究所資料集 13-5)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第6巻 東京・神奈川 (国立国語研究所資料集 13-6)』, 刊行物検討委員会委員
- 『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第7巻 群馬・新潟 (国立国語研究所資料集 13-7)』, 刊行物検討委員会委員
- 『新「ことば」シリーズ』, 協力

### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 概要部会員
- 図書館運営委員会 移転・公開部会員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員

### エ. 見学者への対応等 3件

## 4 所外活動

### ウ. 教育活動

- 非常勤講師

## 5 その他

- 「伝統的な方言、若者の方言」, NHK アナウンサーのはなすきくよむ, NHK ラジオ第2放送, 2002年9月



## 新野直哉 (主任研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築 (国語年鑑)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2002年版』, 2002年12月
- 『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差 —方言は今—』言葉のクリップボード 1件, 2003年3月

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「18 副詞の呼応」, 半沢幹一, 安部清哉, 小野正弘, 金子弘 編 『ケーススタディ日本語の歴史』, pp.108-113, おうふう, 2002年11月
- 「22 敬語」, 半沢幹一, 安部清哉, 小野正弘, 金子弘 編 『ケーススタディ日本語の歴史』, pp.132-137, おうふう, 2002年11月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 斎藤達哉, 新野直哉: 「『国語年鑑』に見る分野別文献数の動向 —1985~2000年の雑誌掲載文献—」, 『日本語科学』 No.11, pp.135-144, 国立国語研究所, 2002年4月
- 「「それにしても」と「それにしては」はどちらがうの?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.75, 明治書院, 2002年11月
- 「「濃い顔」の「濃い」ってどういう意味?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.96, 明治書院, 2002年11月
- 「「タメ口」の「タメ」って何?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.98, 明治書院, 2002年11月
- 「副詞「全然」の「本来の」用法とは?」, 『文教ニュース』 No.1712, p.49, 文教ニュース社, 2003年1月

### 3 上記以外の所内業務

#### ウ. 研究支援等

- 図書館運営委員会 移転・公開部会員

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌 1件

#### ウ. 教育活動

- 目白大学大学院非常勤講師

## 池田理恵子（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（新聞記事データベース）
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費（データベース）国立国語研究所新聞記事画像データベース（分担者）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「国立国語研究所新聞切抜集」（『新聞所載国語関係記事切抜集』目録データベース），国立国語研究所ホームページで追加公開，2003年3月
- 山崎恵，駒田朋子，池田理恵子：「対人認識に基づく談話記述」，『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成』論文集 第2巻 言語体系・言語運用能力とその学習内容』，pp.191-212，2003年3月
- 『国語研の窓』1件

#### C 学術雑誌，商業雑誌等に掲載された論文

- 「履歴書の話 —毛筆縦書きからペン字横書きへ—」，『文教ニュース』No.1720，pp.43-44，文教ニュース社，2003年3月

### 3 上記以外の所内業務

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『国語研の窓』，企画・編集
- 『国立国語研究所研究活動一覧』，企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 評価部会研究活動一覧ワーキンググループ
- 普及広報委員会 国語研の窓部会員

### 4 所外活動

#### イ. 学会活動

- 社会言語科学会事業委員会委員



## 斎藤達哉（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（国語年鑑／日本語教育年鑑）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語年鑑 2002年版』，2002年12月

C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 斎藤達哉, 新野直哉: 『国語年鑑』に見る分野別文献数の動向 —1985~2000年の雑誌掲載文献—, 『日本語科学』 No.11, pp.135-144, 国立国語研究所, 2002年4月
- 「源氏物語の口語訳を通して知ることのできる近代の言葉」, 『文教ニュース』 No.1718, pp.51-52, 文教ニュース社, 2003年3月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語教育年鑑 2002年版』, 協力
- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 評価部会研究活動一覧ワーキンググループ
- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 図書館運営委員会 図書選定部会員

エ. 見学者への対応等 15件

4 所外活動

イ. 学会活動

- 国語学会庶務委員

ウ. 教育活動

- 跡見学園女子大学文学部非常勤講師



辻野都喜江 (研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築 (新聞記事データベース)
- 科学研究費補助金 研究成果公開促進費 (データベース) 国立国語研究所新聞記事画像データベース (分担者)

2 成果公表活動

A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 「国立国語研究所新聞切抜集」(『新聞所載国語関係記事切抜集』目録データベース), 国立国語研究所ホームページで追加公開, 2003年3月

3 上記以外の所内業務

イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『国立国語研究所研究活動一覧』, 企画・編集

ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 評価部会研究活動一覧ワーキンググループ



**中山典子**（研究員）

1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語の研究・状況に関する目録情報データベースの構築（図書館システム／図書館目録データベース）

3 上記以外の所内業務

ウ. 研究支援等

- 図書館運営委員会 図書選定部会員

# 情報資料部門第二領域

## 横山詔一（領域長）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成（インターネットによる海外提供システム）
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 電子政府汎用電子情報交換環境整備プログラム
- 大学院教育
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供 (代表者)

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供（科学研究費補助金基盤研究 (C)(2) 研究成果報告書）』, 2003 年 3 月

#### B 所員が執筆・編集した単行本

- 「国立国語研究所の役員」, 三木喜彦他 編 『新版 心理の仕事』, pp.175-178, 朱鷺書房, 2002 年 12 月

#### C 学術雑誌, 商業雑誌等に掲載された論文

- 久野雅樹, 横山詔一, 野崎浩成: 「毎日新聞と朝日新聞における文字使用の差」, 『計量国語学』 Vol.23 No.6, pp.277-295, 計量国語学会, 2002 年 9 月
- 横山詔一, エリク=ロング: 「日本語図書情報の海外提供システム」, 『日本語学』 Vol.21 No.15, pp.54-61, 明治書院, 2002 年 12 月
- 共同通信社 編 『新日本語ノート』, pp.23-26, 国立国語研究所

#### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 横山詔一, 熊谷康雄, エリク=ロング, 米田純子: 「日本語情報の海外提供システム」, 『国語学会 2002 年度春季大会発表要旨集』, pp.233-240, 国語学会, 2002 年 5 月
- Yokoyama Shoichi, Eric Long, Kumagai Yasuo, Yoneda Junko & Joseph F. Kess: 「日本語図書情報を海外に日本語で提供するシステムの開発」, *Changing Japanese Identities in Multicultural Canada*, pp.25-26, Centre for Asia-Pacific Initiatives, University of Victoria, Canada, 2002 年 8 月
- 大森拓哉, 繁樹算男, 笹原宏之, 横山詔一: 「漢字選好モデルの数量化 I 類とニューラルネットによる検討」, 『日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集』, pp.228-229, 日本行動計量学会, 2002 年 9 月
- 「日経広告研究所創立 35 周年記念シンポジウム: ブランド連想と広告戦略」, 日経広告研究所 編 『日経広告研究所報』 No.206, pp.2-16, 日経広告研究所, 2002 年 12 月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第 10 回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 協力
- 第 12 回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 協力
- 第 14 回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」, 協力

イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語教師のための対照研究入門 (日本語教育ブックレット 3)』, 刊行物検討委員会委員
- 『第二言語習得の心理学的研究方法 (日本語教育ブックレット 4)』, 刊行物検討委員会委員
- 『日本語科学』, 企画・編集

ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会委員
- 研究計画委員会 評価部会員
- 研究計画委員会 研究交流部会員
- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会委員
- 普及広報委員会 企画調整部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会長
- ネットワーク運営委員会委員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク基盤整備部会長
- 大学院運営委員会委員
- 大学院運営委員会 企画調整部会員
- 大学院運営委員会 博士課程部会員
- 施設整備委員会委員
- 移転整備実施委員会委員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員

4 所外活動

ア. 所外委員会

- External Advisor in the Centre for Asia-Pacific Initiatives at University of Victoria, Canada

イ. 学会活動

- 計量国語学会理事
- 日本心理学会認定心理士認定委員
- 査読 国内雑誌 8 件

5 その他

- マイクロソフト社による取材, 2002 年 12 月
- 『河北新報』による取材, 2003 年 1 月

◇ ◇

**山田 貞雄** (主任研究員)

1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 言葉に関する電話質問等への対応

## 2 成果公表活動

### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『新「ことば」シリーズ16 ことばの地域差 一方は今—』コラム1件, 2003年3月

### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「「ごめんなさい」の「なさい」は何かを命令しているの?」, 『日本語学』 Vol.21 No.14, p.125, 明治書院, 2002年11月
- 「文字の疑問あれこれ」, 『日本語学』 Vol.21 No.15, pp.74-77, 明治書院, 2002年12月

## 3 上記以外の所内業務

### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 外来語相談窓口ホットライン応答
- 第10回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 企画・運営, 協力
- 第11回ことばフォーラム「ことば探険・ことば発見」, 企画・運営
- 第12回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 企画・運営, 協力
- 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」, 企画・運営
- 第14回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」, 企画・運営, 協力

### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『新「ことば」シリーズ』, 協力
- 『日本語科学』, 協力

### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 普及啓発図書企画部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員
- レクリエーション委員会委員長

### エ. 見学者への対応等 3件

## 4 所外活動

### ア. 所外委員会

- 平成15年全国広報コンクール部門審査委員

### イ. 学会活動

- 査読 国内雑誌1件

## 5 その他

- 「文字の疑問あれこれ」日本ペン習字研究会師範認定証授与式記念講演, 学士会館, 2002年2月

## 森本祥子（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成（バーチャル日本語情報資料館システム／研究資料のデジタル化／電子化報告書・資料集等／日本語教育支援総合ネットワーク）

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『国語研の窓』 1 件

#### C 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文

- 「アーカイブシステムの構築」, 『アーカイブズ』 No.9, pp.23-33, 国立公文書館, 2002 年 7 月
- 「研究活動の資料とアーカイブズ」, 『京都大学大学文書館だより』 No.3, pp.5-7, 京都大学大学文書館, 2002 年 10 月

#### D 論文集等に掲載された論文

- 「アーキビストの専門性：普及活動の視点から」, 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 編 『日本のアーカイブズ論』, pp.463-482, 岩田書院, 2003 年 3 月

#### F 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 伊戸川暁, 古賀崇, 小林年春, 森本祥子: 「パネルディスカッション —記録管理のイノベーション—」, 記録管理学会 2002 年研究大会, 2002 年 5 月
- 「文書館資料情報の標準化 (ISAD) 動向」, 科学研究費補助金基盤研究 (B) 広領域分野資料の横断的アーカイブズ論に関する分析的研究研究会, 2002 年 8 月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」, 企画・運営

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 国際シンポジウム部会員
- 普及広報委員会 「ことば」ビデオ作成部会員
- ネットワーク運営委員会 ネットワーク運用管理部会員



## 鈴木美都代（研究員）

### 1 担当研究・事業課題名（科研費等も含む）

- 言葉に関する電話質問等への対応

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第10回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」、企画・運営
- 第12回ことばフォーラム「新聞の漢字」、企画・運営
- 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」、企画・運営
- 第14回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」、企画・運営

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員



### 小高京子 (研究員)

#### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成 (バーチャル日本語情報資料館システム/研究資料のデジタル化/電子化報告書・資料集等)

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

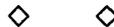
- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」、協力

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『国語研の窓』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 国語研の窓部会員



### 塚田実知代 (研究員)

#### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語の多様性に関する基盤データの整備と研究法の探索 (学校敬語・敬意表現調査報告)
- 言葉に関する電話質問等への対応

### 2 成果公表活動

#### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 『学校の中の敬語 2 —面接調査編— (国立国語研究所報告 120)』, 2003年3月

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 第10回ことばフォーラム「暮らしの中の漢字」, 協力
- 第11回ことばフォーラム「ことば探検・ことば発見」, 企画・運営
- 第12回ことばフォーラム「新聞の漢字」, 協力
- 第13回ことばフォーラム「方言地図の見方・作り方」, 企画・運営
- 第14回ことばフォーラム「ビジネスや留学にいきる言葉の力とは?」, 企画・運営

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『学校の中の敬語2 ―面接調査編― (国立国語研究所報告120)』, 企画・編集
- 『日本語科学』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 研究計画委員会 「日本語科学」編集部会員
- 普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会員



## 磯部よし子 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成 (バーチャル日本語情報資料館システム/研究資料のデジタル化/電子化報告書・資料集等)

### 3 上記以外の所内業務

#### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「日本語コミュニケーションの言語問題」, 協力

#### イ. 研究所刊行物の企画・編集・協力等

- 『新「ことば」シリーズ』, 企画・編集

#### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 新「ことば」シリーズ部会員



## 米田純子 (研究員)

### 1 担当研究・事業課題名 (科研費等も含む)

- 日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成 (インターネットによる海外提供システム)
- 電子政府汎用電子情報交換環境整備プログラム
- ITを活用した日本語学習環境の整備
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新聞6億字の言語調査と日本語学習者へのWeb出版によるデータ提供 (協力者)

## 2 成果公表活動

### A 国立国語研究所を刊行元とするもの

- 横山詔一：『新聞 6 億字の言語調査と日本語学習者への Web 出版によるデータ提供（科学研究費補助金基盤研究 (C)(2) 研究成果報告書）』, 2003 年 3 月

### E 口頭・ポスター発表（予稿集あり）

- 横山詔一, 熊谷康雄, エリック=ロング, 米田純子：「日本語情報の海外提供システム」, 『国語学会 2002 年度春季大会発表要旨集』, pp.233-240, 国語学会, 2002 年 5 月
- Yokoyama Shoichi, Eric Long, Kumagai Yasuo, Yoneda Junko & Joseph F. Kess：「日本語図書情報を海外に日本語で提供するシステムの開発」, *Changing Japanese Identities in Multicultural Canada*, pp.25-26, Centre for Asia-Pacific Initiatives, University of Victoria, Canada, 2002 年 8 月

## 3 上記以外の所内業務

### ア. 研究所主催行事の企画・運営・協力等

- 国立国語研究所国際シンポジウム「環太平洋地域における日本語の地位」, 企画・運営
- 平成 14 年度 国立国語研究所研究発表会, 企画・運営

### ウ. 研究支援等

- 普及広報委員会 公開研究発表会部会員
- 汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会委員
- ネットワーク管理業務



平成14年度

研究会議・研究発表一覧

所内委員会委員・部会員一覧

刊行物検討委員会一覧

所内見学者一覧

招へい研究員一覧

非常勤研究員等一覧

外国人等研究員受入一覧

外国出張一覧



平成14年度研究会議・研究発表一覧

氏名	発表題目
前川喜久雄	話し言葉における長母音の短呼 — 『日本語話し言葉コーパス』を用いた音声変換の分析—
杉戸清樹・熊谷智子・宇佐美洋	平成13年度「ことば」ビデオの作成について
井上優・三井はるみ	平成13年度刊行『新「ことば」シリーズ15 日本語を外から眺める』について
島村直己	大学生の読書力
山田貞雄・鈴木美都代・塚田実知代	電話質問対応：13年度実績報告と今後の課題について
尾崎喜光	報告書『学校の中の敬語2—面接調査編—』について
三井はるみ	平成14年度新「ことば」シリーズ16作成概要
島村直己	「壮丁教育調査」の実施経緯について
大西拓一郎	方言における「コソ～已然形」係り結びの沿革
井上優	「のだ」の対照研究
カネギ・ルース	教室の場における言語による社会化過程 —ある中学校教諭の学級通信に現れた価値観，思考パターン，行動の形成を促す表現の変化—

平成14年度所内委員会委員・部会員一覧 (◎印：委員長 ○印：部会長 ※印：管理部職員)

研究計画委員会

◎ 甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 吉岡泰夫 米田正人  
加藤安彦 前川喜久雄 石井恵理子 柳澤好昭 伊藤雅光 横山詔一 近藤二郎※

研究計画委員会 研究企画調整部会

○ 杉戸清樹 相澤正夫 熊谷康雄 近藤二郎※

研究計画委員会 評価部会

○ 相澤正夫 加藤安彦 石井恵理子 横山詔一 近藤二郎※

研究計画委員会 評価部会 研究活動一覧ワーキンググループ

○ 相澤正夫 山口昌也 池田理恵子 齋藤達哉 辻野都喜江

研究計画委員会 刊行企画部会

○ 杉戸清樹 加藤安彦 石井恵理子 伊藤雅光 近藤二郎※

研究計画委員会 研究交流部会

○ 相澤正夫 前川喜久雄 柳澤好昭 横山詔一 近藤二郎※

研究計画委員会 国際シンポジウム部会

○ 熊谷康雄 吉岡泰夫 米田正人 前川喜久雄 柳澤好昭 伊藤雅光 菅井英明  
森本祥子 近藤二郎※

研究計画委員会 「日本語科学」編集部会 (年度途中で一部委員の入れかえあり)

○ 伊藤雅光 加藤安彦 尾崎喜光 杉本明子  
横山詔一 熊谷智子 鈴木美都代 塚田実知代 (平成14年9月まで)  
小椋秀樹 小磯花絵 福永由佳 齋藤達哉 (平成14年10月から)  
大島資生(所外) 山田進(所外) (平成14年9月まで)  
青山文啓(所外) 安部清哉(所外) (平成14年10月から)

普及広報委員会

◎ 甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 吉岡泰夫 米田正人  
加藤安彦 前川喜久雄 石井恵理子 柳澤好昭 伊藤雅光 横山詔一 田中牧郎  
熊谷智子 三井はるみ 井上優 近藤二郎※

普及広報委員会 企画調整部会

○ 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 横山詔一 田中牧郎 熊谷智子 三井はるみ  
井上優 近藤二郎※

普及広報委員会 国語研の窓部会

○ 井上優 池田理恵子 小高京子 膝館俊広※

普及広報委員会 普及啓発図書企画部会

○ 杉戸清樹 田中牧郎 笹原宏之 金田智子 山田貞雄 當眞千賀子 久保田学※

**普及広報委員会 概要部会**

○近藤二郎※ 大西拓一郎 井上文子 小沼悦

**普及広報委員会 新「ことば」シリーズ部会**

○三井はるみ 尾崎喜光 小椋秀樹 磯部よし子 膝館俊広※

**普及広報委員会 「ことば」ビデオ作成部会**

○熊谷智子 大西拓一郎 宇佐美洋 森本祥子 久保田学※

**普及広報委員会 公開研究発表会部会**

○田中牧郎 笹原宏之 小磯花絵 杉本明子 米田純子 膝館俊広※

**普及広報委員会 「ことば」フォーラム部会**

○横山詔一 吉岡泰夫 大西拓一郎 山田貞雄 小椋秀樹 小河原義朗 菅井英明  
塚田実知代 膝館俊広※

**図書館運営委員会**

◎木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 吉岡泰夫 前川喜久雄 柳澤好昭  
伊藤雅光 近藤二郎※

**図書館運営委員会 企画部会**

○近藤二郎※ 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄

**図書館運営委員会 移転・公開部会**

○熊谷康雄 伊藤雅光 井上文子 新野直哉 當眞千賀子 宇佐美洋 早田美智子  
久保田学※

**図書館運営委員会 図書選定部会**

○吉岡泰夫 前川喜久雄 山崎誠 井上文子 杉本明子 小河原義朗 齋藤達哉  
早田美智子 中山典子 久保田学※

**ネットワーク運営委員会**

◎熊谷康雄 相澤正夫 杉戸清樹 前川喜久雄 柳澤好昭 横山詔一 山崎誠  
山口昌也 植木正裕 近藤二郎※

**ネットワーク運営委員会 ネットワーク基盤整備部会**

○横山詔一 小磯花絵 植木正裕 久保田学※

**ネットワーク運営委員会 ネットワーク運用管理部会**

○山崎誠 山口昌也 宇佐美洋 森本祥子 膝館俊広※

**大学院運営委員会**

◎甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 加藤安彦 石井恵理子  
横山詔一 近藤二郎※

**大学院運営委員会 企画調整部会**

○杉戸清樹 石井恵理子 横山詔一 近藤二郎※

**大学院運営委員会 修士課程部会**

○石井恵理子 柳澤好昭 熊谷智子

**大学院運営委員会 博士課程部会**

○ 杉戸清樹 横山詔一 金田智子

**施設整備委員会**

◎ 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 加藤安彦 前川喜久雄 石井恵理子  
柳澤好昭 伊藤雅光 横山詔一 近藤二郎\*

**情報公開委員会**

◎ 熊谷康雄 相澤正夫 杉戸清樹 加藤安彦 石井恵理子 伊藤雅光 近藤二郎\*

**セクシャルハラスメント防止委員会**

◎ 熊谷康雄 石井恵理子 金田智子 三井はるみ 近藤二郎\* 膝舘俊広\*

**レクリエーション委員会**

◎ 山田貞雄 小椋秀樹 小河原義朗 小林一隆\*

**所内「外来語」委員会**

◎ 甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 加藤安彦 田中牧郎  
近藤二郎\*

**移転整備実施委員会**

◎ 甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 加藤安彦 前川喜久雄  
石井恵理子 柳澤好昭 伊藤雅光 横山詔一 近藤二郎\*

**移転整備実施委員会 企画部会**

○ 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 近藤二郎\* 膝舘俊広\* 久保田学\*

**汎用電子情報交換環境整備プログラム所内委員会**

◎ 甲斐睦朗 木村直 相澤正夫 杉戸清樹 熊谷康雄 柳澤好昭 横山詔一  
笹原宏之 米田純子 近藤二郎\* 膝舘俊広\* 久保田学\*

平成14年度刊行物検討委員会一覧 (○印：委員長)

『学校の中の敬語2 一面接調査編一』 (国立国語研究所報告120)

○相澤正夫 尾崎喜光 井上優 井上文子

『方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』第4巻～第7巻

(国立国語研究所資料集13-4～13-7)

○熊谷康雄 熊谷智子 三井はるみ 井上文子

『分類語彙表 一増補改訂版一』 (国立国語研究所資料集14)

○相澤正夫 山崎誠 杉戸清樹 伊藤雅光

『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究  
タイ (バンコック) アンケート調査集計結果報告書』

○杉戸清樹 山口昌也 小河原義朗 井上文子

『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』

○杉戸清樹 當眞千賀子 宇佐美洋 横山詔一

日本語教育ブックレット

3『日本語教師のための対照研究入門』

4『第二言語習得の心理学的研究方法』

○杉戸清樹 熊谷智子 井上優 杉本明子 横山詔一

## 平成14年度所内見学者一覧

※以下にあげたものは、公的な依頼を受けたものである。  
そのほかにも、国の内外から随時来訪者があり、関係する研究職員が対応した。

見 学 日	見 学 者
平成14年	
4月 24日	岩手県盛岡市立厨川中学校生徒 (2名)
5月 22日	兵庫県加東郡滝野町立滝野中学校生徒 (6名)
5月 28日	愛知県豊橋市立高豊中学校生徒 (4名)
6月 7日	福井県武生市立武生第一中学校生徒 (5名)
6月 20日	KCP日本語教師養成講座受講生および事務局 (15名)
7月 30日	立命館大学修士課程学生 (1名) (文部科学省インターンシップ)
10月 11日	国際交流基金日本語国際センター (関西) ポストグラデュエイト・プログラム招へい外国人 (6名)
11月 15日	東京都板橋区立第一中学校生徒 (2名)

## 平成14年度招へい研究員一覧

氏名 / 国籍	所属 / 期間
カネギ・ルース (アメリカ合衆国)	オレゴン大学東アジア言語・文学部助教授 平成14年4月1日～平成15年3月31日
張 威 (中華人民共和国)	清華大学外国語学部・助教授 平成14年7月20日～平成14年3月19日

## 平成14年度非常勤研究員等一覧

### 研究開発部門

非常勤研究員	宇佐美まゆみ		
第一領域			
非常勤研究員	小木曾智信	非常勤研究員	近藤明日子
〃	中川美和	〃	飯間浩明
研究補佐員	吉川明日香	研究補佐員	石山順子
〃	虎岩千賀子	〃	寺田紗知子
〃	桐生りか	〃	吉田谷幸宏
〃	稲益佐知子		
第二領域			
非常勤研究員	篠崎晃一	非常勤研究員	亀田裕見
〃	小西いずみ	研究補佐員	吉田雅子
第二領域・融合			
非常勤研究員	籠宮隆之	非常勤研究員	菊池英明
〃	木村朗子	〃	木村睦子
〃	西川賢哉	〃	斎藤美紀
〃	米山聖子	〃	槇 洋一
〃	塚原 涉	〃	河原達也
〃	伝 康晴	〃	宮島達夫
〃	石井正彦	〃	五十嵐洋介
〃	石塚京子	〃	南 泰浩
〃	達瓦・伊徳木草	〃	間淵洋子
〃	小島丈幸	〃	田中英輝
〃	藤本雅子	〃	丸山岳彦
〃	山住賢司	〃	渡邊良子
研究補佐員	阿左美厚子	研究補佐員	河西秀早子
〃	杉山仁美	〃	栗原美和子
〃	相馬さつき	〃	永山美穂

### 日本語教育部門

第一領域			
非常勤研究員	チョン ウン ジョン	非常勤研究員	富谷玲子
〃	岡部真理子	〃	下平菜穂
〃	黒野敦子	〃	峯 布由紀
研究補佐員	竹田麻衣	研究補佐員	井上義勝
事務補佐員	館野有希枝	事務補佐員	福富七重
〃	笠井淳子	〃	今井祥子
〃	鈴木理子		
第二領域			
非常勤研究員	玉置亜衣子	非常勤研究員	水野千佳子
〃	金子史朗	〃	加藤久枝
〃	櫻木紀子		
事務補佐員	篠崎佳子	事務補佐員	稲垣陽子
〃	池田優子	〃	高橋悦子

### 情報資料部門

非常勤研究員	半沢 康		
第二領域			
非常勤研究員	ロング・エリク	事務補佐員	宮崎ユカ

平成14年度外国人等研究員受入一覧

(新規受入者および平成14年度在籍外国人研究員等を含む)

氏名 / 国籍	所属 / 期間	指導教官
林 鍾守 (大韓民国)	徐羅伐大学副教授 平成13年3月31日～平成14年5月31日	山崎 誠
ザトラウスキー・ポリー (アメリカ合衆国)	ミネソタ大学言語学科準教授 平成14年5月23日～平成14年1月17日	熊谷智子
辛 昭静 (特別研究生) (大韓民国)	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科在籍 平成14年5月28日～平成15年3月31日	吉岡泰夫
荒木 俊子 (特別研究生) (日本)	北陸先端科学技術大学大学院 知識科学研究科在籍 平成14年10月1日～平成15年9月30日	熊谷智子
王 怡 (中華人民共和国)	北京第二外国語学院日本語学部 平成14年10月21日～平成15年3月20日	井上 優
四釜綾子 (ドイツ連邦共和国)	ゲアハルト・メルカトール大学 デュイスブルク校研究員 平成14年10月28日～平成14年12月31日	米田正人
バックハウス・ペーター (ドイツ連邦共和国)	ゲアハルト・メルカトール大学 デュイスブルク校研究員 平成15年2月4日～平成15年6月12日	米田正人

## 平成14年度外国出張一覧

※ 以下にあげたものは、公費による出張のみである。

氏名	用務／用務先／期間
甲斐睦朗	学術交流合意書に基づく研究・情報の交流及び協力事業に関する打ち合わせ 中華人民共和国 平成14年10月22日～平成14年10月25日
木村 直	学術交流合意書に基づく研究・情報の交流及び協力事業に関する打ち合わせ 中華人民共和国 平成14年10月22日～平成14年10月25日
相澤正夫	学術交流合意書に基づく研究・情報の交流及び協力事業に関する打ち合わせ 中華人民共和国 平成14年10月22日～平成14年10月25日
前川喜久雄	ICSLP (7 <sup>th</sup> International Conference on Spoken Language Processing) 2002にて研究発表 アメリカ合衆国 平成14年9月15日～平成14年9月22日  北京日本学術研究センター・国際シンポジウム「進化する日本研究」分科会にて研究発表 中華人民共和国 平成14年9月27日～平成14年10月1日
尾崎喜光	「日韓新時代における若者のコミュニケーションのあり方と意識に関する研究」の研究会及び打ち合わせ 大韓民国 平成14年7月11日～平成14年7月15日  「日韓新時代における若者のコミュニケーションのあり方と意識に関する研究」の調査会社との打ち合わせ 大韓民国 平成15年2月3日～平成15年2月6日
熊谷智子	「日韓新時代における若者のコミュニケーションのあり方と意識に関する研究」の研究会及び打ち合わせ 大韓民国 平成14年7月11日～平成14年7月14日

- 當眞千賀子 「年少者日本語教育における学習環境と言語習得の研究」に関する  
学会発表  
オランダ  
平成14年6月16日～平成14年6月24日
- 杉戸清樹 学術交流合意書に基づく研究・情報の交流及び協力事業に関する打ち  
合わせ  
中華人民共和国  
平成14年10月22日～平成14年10月25日
- 石井恵理子 「日韓新時代における若者のコミュニケーションのあり方と意識に  
関する研究」による研究会及び打ち合わせ  
大韓民国  
平成14年7月11日～平成14年7月15日
- 大韓民国（ソウル）における初等・中等・高等教育の日本語教育の  
カリキュラム，教師養成システム及び日本語リソースに関する調査  
並びに大韓民国本調査（アンケート・インタビュー）のための準備，  
現地協力体制の構築  
大韓民国  
平成15年1月16日～平成15年1月18日
- 大韓民国の中等教育における日本語教育に関する調査（準備会合）  
大韓民国  
平成15年2月21日～平成15年2月23日
- 井上 優 北京日本学研究中心・国際シンポジウム「進化する日本研究」な  
らびに総合講座での講演  
中華人民共和国  
平成14年9月25日～平成14年10月1日
- 金田智子 オーストラリア（メルボルン）における初等・中等・高等教育の日本  
語教育のカリキュラム，教師養成システム及び日本語リソースに関  
する調査並びに平成14年オーストラリア本調査（アンケート・インタ  
ビュー）のための準備，現地協力体制の構築  
オーストラリア  
平成14年9月7日～平成14年9月14日
- 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」海外調査  
オーストラリア  
平成14年10月27日～平成14年11月2日
- 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」調査前準備  
及び交渉  
オーストラリア  
平成15年3月30日～平成15年4月4日

- 杉本明子 「インターネット・マルチメディアを利用した日本語教育実践の可能性と効果に関する研究」の研究データ収集と打ち合わせ  
アメリカ合衆国  
平成15年3月16日～平成15年3月24日
- 菅井英明 香港工科大学にて報告書の収集及び研究者との交流  
中華人民共和国（香港）  
平成15年3月24日～平成15年3月26日
- 宇佐美 洋 財団法人日本国際教育協会主催の「日本留学試験」説明会において、同試験の内容についての説明  
大韓民国，台湾  
平成14年6月27日～平成14年6月30日
- CASTEL/J2002（第3回「日本語教育とコンピュータ」国際会議）において研究発表及び「日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究」プロジェクトに関する広報活動/情報収集  
アメリカ合衆国  
平成14年7月10日～平成14年7月16日
- 「日本語学習者による日本語発話と母語発話との対照データベース—開発/応用のための研究」の趣旨説明と協力依頼，及びデータ収集  
大韓民国  
平成14年9月29日～平成14年10月4日
- 「日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究」の趣旨説明と協力依頼，及び現地での日本語教育事情の視察  
ハンガリー共和国・スロベニア共和国  
平成14年11月24日～平成14年12月1日
- 「日本語学習者による日本語発話と母語発話との対照データベース—開発/応用のための研究」の趣旨説明と協力依頼，及びデータ収集  
台湾，タイ王国  
平成15年1月9日～平成15年1月15日
- 「日本語学習者による日本語発話と母語発話との対照データベース—開発/応用のための研究」のデータ収集と打ち合わせ  
大韓民国  
平成15年2月23日～平成15年2月26日
- 小河原義朗 オーストラリア（メルボルン）における初等・中等・高等教育の日本語教育のカリキュラム，教師養成システム及び日本語リソースに関する調査並びに平成14年オーストラリア本調査（アンケート・インタビュー）のための準備，現地協力体制の構築  
オーストラリア  
平成14年9月7日～平成14年9月14日

大韓民国（ソウル）における初等・中等・高等教育の日本語教育の  
カリキュラム，教師養成システム及び日本語リソースに関する調査  
並びに大韓民国本調査（アンケート・インタビュー）のための準備，  
現地協力体制の構築

大韓民国

平成15年1月16日～平成15年1月18日

井上義勝

「日本語学習者による日本語発話と母語発話との対照データベース  
—開発/応用のための研究」のデータ収集と打ち合わせ

大韓民国

平成15年2月23日～平成15年2月26日

柳澤好昭

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

大韓民国

平成14年5月16日～平成14年5月21日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

タイ王国

平成14年5月27日～平成14年5月30日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

中華人民共和国

平成14年11月2日～平成14年11月6日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

大韓民国

平成14年11月9日～平成14年11月11日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

タイ王国

平成14年12月16日～平成14年12月17日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

大韓民国

平成14年12月19日～平成14年12月20日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備

ドイツ

平成15年3月20日～平成15年3月24日

植木正裕

ITを活用した日本語学習環境整備の準備  
大韓民国  
平成14年5月16日～平成14年5月21日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備  
中華人民共和国  
平成14年5月26日～平成14年5月28日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備  
インドネシア，マレーシア  
平成15年5月30日～平成15年6月4日

ITを活用した日本語学習環境整備の準備  
中華人民共和国  
平成14年11月2日～平成14年11月6日

平成14年度  
国立国語研究所刊行物一覽



平成14年度国立国語研究所の刊行物

書名	市販品刊行元	刊行年月
<b>年鑑</b>		
『日本語教育年鑑』2002年版	くろしお出版	平成14年6月
『国語年鑑』2002年版	大日本図書	平成14年12月
<b>国立国語研究所報告</b>		
120『学校の中の敬語2 一面接調査編一』	三省堂	平成15年3月
<b>日本語科学</b>		
『日本語科学』11	国書刊行会	平成14年4月
『日本語科学』12	国書刊行会	平成14年10月
<b>新「ことば」シリーズ</b>		
16『ことばの地域差 一方言は今一』	財務省印刷局	平成15年3月
<b>「ことばビデオ」シリーズ</b>		
『豊かな言語生活をめざして 2 コミュニケーションの 「丁寧さ」・「ほめる」というはたらきかけ』		平成15年3月
<b>国立国語研究所資料集</b>		
13-4『方言談話データベース 第4巻 日本のふるさとことば集成 茨城・栃木』	国書刊行会	平成14年6月
13-5『方言談話データベース 第5巻 日本のふるさとことば集成 埼玉・千葉』	国書刊行会	平成14年9月
13-6『方言談話データベース 第6巻 日本のふるさとことば集成 東京・神奈川』	国書刊行会	平成14年12月
13-7『方言談話データベース 第7巻 日本のふるさとことば集成 群馬・新潟』	国書刊行会	平成15年3月
14『分類語彙表 一増補改訂版一』		平成15年3月

**国立国語研究所第9回国際シンポジウム第1部会報告書**

『多言語・多文化共生社会における言語問題』 凡人社 平成14年7月

**その他内部資料等**

『日本語教員養成における実習教育に関する調査研究  
—アンケート調査結果報告—』 平成14年8月

『平成14年度国立国語研究所公開研究発表会予稿集』 平成14年12月

『平成13年度 日本語教育の学習環境と学習手段に  
関する調査研究 タイ (バンコック) アンケート  
調査集計結果報告』 平成15年3月

『作文教育改善のためのデータベース・ツール活用』 平成15年3月

『日本語教育映像教材初級編 日本語でだいじょうぶ  
語彙・文型表』 平成15年3月

『「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」  
論文集』1~4 平成15年3月

**【日本語教育論集】**

『日本語教育論集』19 平成15年3月

**【国立国語研究所日本語教育短期研修報告書】**

『日本語教育ブックレット 3  
日本語教師のための対照研究入門』 平成15年3月

『日本語教育ブックレット 4  
第二言語習得の心理学的研究方法』 平成15年3月

『国立国語研究所研究活動一覽』  
作成作業班

相澤 正夫  
斎藤 達哉  
辻野都喜江  
森本 祥子  
田島 正幸

国立国語研究所研究活動一覽 (平成14年度)

Annual Report of Research Activities  
The National Institute for Japanese Language  
April 2002 - March 2003



平成15年6月30日 発行

編集：独立行政法人 国立国語研究所  
研究計画委員会評価部会  
『国立国語研究所研究活動一覽』  
作成作業班

発行：独立行政法人 国立国語研究所  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
電話：03 (3900) 3111 (代表)  
FAX：03 (3906) 3530  
URL：http://www.kokken.go.jp

(平15-4)